

官報

號外 昭和十二年八月一日

○第七十一回衆議院議事速記録第七號

昭和十二年七月三十一日(土曜日)

午後一時十九分開議

議事日程 第六號

昭和十二年七月三十一日

午後一時開議

第一 通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二 軍機保護法改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第三 兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第四 裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第五 大正十年法律第百二號中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第六 刑事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

昭和十年度第一豫備金支出ノ件
昭和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度第二豫備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度特別會計第二豫備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
昭和十一年度第二豫備金支出ノ件
昭和十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

(承諾ヲ求ムル件)

第八 陪審法中改正法律案(牧野賤男君外八名提出) 第一讀會

第九 陪審法中改正法律案(野田文一郎君外二名提出) 第一讀會

第十 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(森下國雄君提出) 第一讀會

第十一 恩給法中改正法律案(宮脇長吉君外一名提出) 第一讀會

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス
(書記官朗讀)
一 今三十一日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ
貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律案
貿易組合法案
工業組合法中改正法律案
百貨店法案
酒造組合法中改正法律案
(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)
一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
(第三號)昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案
(特第三號)昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル法律案

昭和十年度第一豫備金支出ノ件
昭和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度第二豫備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度特別會計第二豫備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭至同 年三月昭和十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
昭和十一年度第二豫備金支出ノ件
昭和十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

(承諾ヲ求ムル件)

(以上七月三十日提出)
一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
小作法案
提出者
杉山元治郎君
松永 義雄君

提出者 黒田 壽男君 前川 一 正君
富吉 榮二君 野溝 勝君
勞働組合法案

提出者 鈴木 文治君 米窪 滿亮君
河野 密君 塚本 重藏君
永江 一夫君
鐵道豫定線追加ニ關スル建議案

提出者 東北廳設置ニ關スル建議案
小山倉之助君

提出者 森田重次郎君 山田 六郎君
伊藤 五郎君
農業保險法制定ニ關スル建議案

提出者 松浦周太郎君 森田重次郎君
手代木隆吉君 伊藤 五郎君
坂本宗太郎君
漁業組合中央金庫設置促進ニ關スル建議案

提出者 喜多壯一郎君 多田 滿長君
田村 秀吉君 手代木隆吉君
高木条太郎君 松田喜三郎君
卯尾田毅太郎君
國民負擔均衡ニ關スル建議案

提出者 森田重次郎君 松浦周太郎君
山田 順策君 手代木隆吉君
伊藤 五郎君
高等手工師範學校設置ニ關スル建議案

提出者 大野 伴睦君
西成線高架改築並電化促進ニ關スル建議案

提出者 塚本 重藏君 內藤 正剛君
上田 孝吉君
老兵年金法ノ制定並從軍者優遇ニ關スル建議案

提出者 本田 義成君 武知 勇記君
松永 東君 池田 清秋君
小高長三郎君 高橋 義次君
下級俸給者並傭人ニ對スル健康保險法制定ニ關スル建議案

提出者 井上 良次君 田万 清臣君
塚本 重藏君
アンゴラ養兔振興ニ關スル建議案

提出者 野中 徹也君 高橋壽太郎君
一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
(以上七月三十日提出)

國民健康保險法案不提出並醫藥制度調查會設置ニ關スル質問主意書

提出者 武知 勇記君 青木 亮貫君
產繭處理統制ニ關スル質問主意書

提出者 野溝 勝君 須永 好君
前川 正一君 山崎 釵二君
三等郵便局現業従事員ノ待遇改善ニ關スル質問主意書

提出者 佐竹 晴記君
(以上七月三十日提出)
一昨三十日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第一部選出
決算委員 福田關次郎君(本田彌市郎君補闕)

一昨三十日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出)委員
委員長 寺田 市正君
理事 松田 正一君 岡田喜久治君
吉植 庄亮君 西川 貞一君

人造石油製造事業法案(政府提出)外一件
委員 古屋 慶隆君
委員長 栗山 博君 小野 寅吉君
理事 小笠原三九郎君 川島正次郎君

製鐵事業法案(政府提出)委員
委員長 清瀨規矩雄君
理事 中井川 浩君 清 寬君
南條 德男君 瀧澤 七郎君

船員法改正法律案(政府提出)委員
委員長 漢那 憲和君
理事 岡野 龍一君 長井 源君
高橋 泰雄君 田代 正治君

陪審法中改正法律案(政府提出)委員
委員長 牧野 賤男君
理事 澤田 利吉君 中山 福藏君
河野 一郎君 松本 弘君

紀元二千六百年記念日本萬國博覽會抽籤券附回數入場券發行ニ關スル法律案(政府提出)委員

委員長 田中 万逸君
理事 高橋 義次君 飯田 助夫君
宮澤 清作君 深澤豐太郎君

關稅定率法中改正法律案(政府提出)外三件委員
委員長 山道 襄一君
理事 西村金三郎君 本田彌市郎君
岩瀨 亮君 綾部健太郎君

一昨三十日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
產金法案(政府提出)外六件委員
山本 厚三君 勝 正憲君
小山 谷藏君 小山倉之助君
原 玉重君 山田 順策君
小泉 純也君 宇賀 四郎君
小林房之助君 堀内 良平君
猪野毛利榮君 小笠原三九郎君
匹田 銳吉君 生田 和平君
一ノ瀬俊民君 綾部健太郎君
石坂 養平君 武田德三郎君
松山常次郎君 松村 光三君
豐田 收君 窪井 義道君
簡牛 九夫君 田万 清臣君
富吉 榮二君 田川大吉郎君
青木 作雄君

一昨三十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
關稅定率法中改正法律案(政府提出)外三件委員
辭任綾部健太郎君 補闕小平 重吉君
辭任飯塚春太郎君 補闕中島彌國次君
辭任猪野毛利榮君 補闕青山 憲三君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、陸軍大臣、海軍大臣ヨリ報告ガアル筈
デアリマシタガ、臨時閣議ガ開カレタトノ
コトデアリマスカラ、此際日程ニ入リマス、
日程第一、通信事業特別會計ニ於ケル簡易
生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル
經費ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマ
ス——大藏參事官

第一 通信事業特別會計ニ於ケル簡易
生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ
要スル經費ニ關スル法律案(政府提
出) 第一讀會

通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保
險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經
費ニ關スル法律案

逓信省及逓信大臣ノ管理ニ屬スル官署ニ
於テ取扱フ簡易生命保險及郵便年金ノ事
務ニ要スル經費ハ通信事業特別會計ノ所
屬トス

簡易生命保險特別會計及郵便年金特別會
計ハ前項ニ規定スル經費ニ充ツル爲毎年
度通信事業特別會計ニ繰入金ヲ爲スコト
ヲ得

前項ノ規定ニ依ル繰入金ハ通信事業特別
會計業務勘定ノ歳入トシ第一項ニ規定ス
ル經費ハ同勘定ノ歳出トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員中村三之丞君登壇)

○政府委員(中村三之丞君) 只今議題トナ
リマシタ通信事業特別會計ニ於ケル簡易生
命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經
費ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ説明致シマ
ス、保健社會省ヲ設置セラル、コトト相成

リマシタコトト伴ヒ、簡易生命保險及郵便
年金ノ兩事業ハ同省ニ於テ主掌セラル、
コトトナリ、隨テ簡易生命保險及郵便年
金ノ兩特別會計ハ、之ヲ同省ニ移管スルコト
トナリマスルガ、簡易生命保險及郵便年
金ノ現業務及ビ右現業務事務ノ管理ニ關ス
ル事務ハ、之ヲ逓信省及逓信大臣ノ管理
ニ屬スル官署ニ於テ取扱フコトト致シマス
ル關係上、是ガ取扱ニ要スル經費ヲ通信事
業特別會計ニ所屬セシメ、其財源ニ相當ス
ル金額ヲ右ノ兩特別會計ヨリ通信事業特別
會計ニ繰入ル、コトトスルニ必要ナル會計
上ノ處理ニ關スル規定ヲ設クル爲メ、本法
律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何
卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントラ希望
致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマ
ス、之ヲ許シマス——山崎鋌二君
(山崎鋌二君登壇)

○山崎鋌二君 簡單ニ簡條的ニ五點程御伺
致シマス、保健社會省ノ新設ニ伴ヒマシテ、
此事業ガ新省ニ依リテ行ハレルコトハ、只今
ノ御説明デ承ッテ居ルノデアリマスルガ、ソ
レニ依リマシテ逓信省關係ガ實際ノ勸誘其
他ノ事務ヲ扱フヤウニ承知スルノデアリマ
ス、ソコデ第一ニ御伺シタイと思ヒマスル
コトハ、此保險ヲ扱フニ當リマシテ、昭和
十年度ノ簡易保險局ノ年報ニ依ッテ見マス
ルト、月掛五十錢以下ノ掛金ノ加入者ノ新
契約ガ非常ニ少イノデアリマス、ドウ云フ
譯カト思ッテ居リマシタ所ガ、偶、一二ノ例
ヲ私見タノデアリマスル、ソレハ静岡縣下
ニ於テ行ハレタコトデゴザイマス、或ル郵
便局デ募集致シマスル際ニ、五十錢以下ノ
少額者ノ加入ヲ取ルト云フコトハ非常ニ面

倒デアル、手間ガ掛ルカラ、サウ云フモノ
ハ成ルベク取ラヌヤウニシテ居ルノダト
云ッテ、事實加入申込ヲ爲シタル者ヲ斷ッテ、
郵便局ガ扱ハナカッタ事例ガアッタノデアリ
マス、其關係者ガ當局ニ對シテ質問書其他
ヲ出シマシタ所ガ、左様ナコトハナイト思
フカラ、關係當局ヘ言ッテヤルト云フ回答ハ
參ッテ居リマスガ、其儘ニナッテ居ルノデゴ
ザイマス、是其扱タ沼津郵便局長ノ言明
ノ如ク、當局ハ左様ナ極ク零細ナ掛金ヲ以
テ、之ニ加入シヨウトスル者ノ取扱ヲ煩瑣
デアルカラ、之ヲ爲サシメナイ方針デア
カドウカト云フコトヲ、先ツ第一ニ伺ッテ置
キタイノデアリマス

第三點ト致シマシテハ、此引上ニ依ッテ來
ルモノハ當然群小營業者ノ壓迫デアリマス、
之ニ付テ是等ヲ政府ガ積極的ニ整理統合シ
テ、寧ろ是等ヲ一ツノ保險國營政策ノ立前
ニ立チマシテ、之ヲ直接政府ガ取上ゲテシ
マフ——取上ゲルト云フコトハ語弊ガアリ
マスガ、綜合シテ一ツノ國營保險事業ニ移
シテシマフ方針ヲ執ラル、コトガ必要デハ
ナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、第三
點ト致シマシテ、保險國營ヲ斷行スルノ意
思アリヤナシヤ、此點ヲ御伺致シマス(拍
手)

第二點ハ、此保險料ノ金額ト云フモノガ
僅カ四百圓ノモノデゴザイマススケレドモ、
今日社會情勢モ非常ナル變化ヲ來シテ居リ
マス、故ニ之ヲ千圓程度位ニ引上ゲル意思
アリヤナシヤ、此點ヲ御伺シタイノデアリ
マス(拍手)此千圓程度ニ引上ゲルコトガ、
群小ノ保險營業利事業會社ノ營業ヲ壓迫スル
ト云フヤウナ言動ノ下ニ、一部ニ反對シテ
居ル向ガアルサウデアリマス、併ナガラ國
民ノ健康乃至生命ノ保險ヲスルコトハ、少
數營業利會社ノ手ニ依ッテノミ萬全ヲ期セラ
ル、コトデナイコトハ勿論デゴザイマス、
仍テ是等ノ國民ノ殆ド中以下ニ位シテ居ル
人達ノ生命ヲ保險シヨウトスレバ、少數ノ
營業利業者ヲ壓迫スルコト云フ、二ツノ立前ニ
立ッテ、ドチカラ探ラナケレバナラスト云
フコトニ今日ナッテ居ルノデハナイカ、吾々
ハ斯様ニ推察スルノデアリマス、ソコデ先
ツ第一ニ左様ナコトハ今日ノ國民生活安
定、保險政策ヲ徹底サセヨウトスル場合ニ
於テハ、ドチカラ探ラナケレバイカス、

ソレカラモウ一點最後ニ御伺致シタイト
思ヒマスルコトハ、保險料金ノ引下ヲ爲ス
意思ガアルカドウカ、斯ウ云フ點デアリマ
ス、創業以來相當ノ年月ヲ經テ居リマスカ
ラ、其營業モ統計ヲ以テ見レバ飛躍的ニ伸
ビテ居ルノデアリマス、サウナレバ勢ヒ料
金ガ自然ニ下ッテモ、是ハ當然ナノデアリマ
スケレドモ、其料金率ノ引下ト云フコトハ
ゴザイマセヌ、保險會社ノ營業率カラ見レ
バ、私ハ約一割程度ノ高率デアルト考ヘルノ
デアリマス、併ナガラ二割程度ノ高率モ、月
月集メニ來テ吳レルト云フ一ツノ便宜ガア
リマスル爲メ、之ニ對スル加入ガ相當アルノ
デハナイカ、殊ニ各郵便局ニ強制的ニ割當
テテ、之ヲ全國的ニ徵募スル關係上相當ノ成
績ヲ擧ゲテ居ル、只今コ、デ二割乃至三割ノ
引下ヲ斷行シテモ、國庫ニ對シテ損害ヲ掛
ケルヤウナコトハナイ、保險ハ十分立チ得

ル、斯様ニ統計ノ上カラ見テ考ヘルノデア
リマスガ、之ヲ政府ハ斷行セラル、意思ア
リヤナシヤ、斯ウ云フ點ヲ御同致シタイ
思ヒマス

附帶致シマシテ、ソレ等ノ保險積立金ヲ
以テ、政府ノ公債發行ニ對シテ之ヲ引受ケ
ルコトノミ政策ヲ振向ケテ行キマスルナ
ラバ、將來保險關係ノ低利資金政策ノ上ニ
於テモ非常ナル支障ヲ來シテ來ハシナイ
カ、是等ノ集積タモノハ、ドウセ零細ナル中
以下ノ大衆ノ金デアッデ——何万圓ト云フ
生命保險ヲ掛ケルコトノ出來ナイ人達ノ利
用機關デアリマスカラ、謂ハバ庶民階級ノ
生命ト生活ヲ安定セシメル機關ニ依ッテ零
細ニ集メタモノデアリマス、隨テ其利用方
法ハ成ベク之ヲ結核豫防費用トカ、或ハ其
他ノ細民階級ノ保健衛生ノ爲ニ、殊ニ是ハ
十分ニ全部的ニモ使用シナケレバナラス
思フノデゴザイマス(拍手)是等ニ對スル當
局ノ御所信ハ如何デゴザイマスルカ、之ヲ
御同致シマス、以上簡單デゴザイマスルガ
御同致シマス(拍手)

〔政府委員田島勝太郎君登壇〕

○政府委員(田島勝太郎君) 山崎君ノ御質
疑ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、第一問ハ簡
易保險募集ノ上ニ於キマシテ、五十錢以下
ノ保險料金ノモノヲ加入セシメルコトヲ
澁ッテ居ルヤウナ傾向ガアルヤウデア
ルガ、ソレハ不都合デハナイカト云フヤウナ御尋
デアッタヤウニ思ヒマス、此點ニ付テ御答
申上ゲマスルガ、簡易保險ノ月掛料金ハ十
錢ヲ最低ト致シマシテ、ソレヨリ以上十
錢刻ミニナッテ居ルノデゴザイマス、ソレ
加入者ハ如何ナル料金ノモノニモ加入シ
得ルコトハ勿論デアリマシテ、募集從事員
ト致

シマシテハ仕事ニ熱心デアリマス餘リニ、
成ベク保險金ノ高額ナルモノヲ募集スル
コトヲ欲スルヤウナ傾向ハアルコトト存
ジマスルケレドモ、申上ゲマスル通りニ
十錢以上刻ミニナッテ居リマシテ、成ベ
ク少額ノ保險モ之ヲ取扱フコトガ本事業
ノ精神デモゴザイマスルカラ、其點ニ付
キマシテ當局ト致シマシテ少額ノ保險募
集集ト云フコトヲ澁ッテ、高イ方ヲ獎勵
スルト云フヤウナ精神ヲ以テ、此事業ヲ
經營シテ居ルト云フヤウナコトハ、毛頭
アリマセヌト云フコトヲ申上ゲテ置キ
タイト思フノデアリマス

次ハ此簡易保險ノ最高金額ヲ千圓ニ引
上ゲル意思ハナイカドウカト云フ御尋
デアリマスルガ、此點ニ付キマシテ以前
ニ保險ノ最高金額ヲ引上ゲマスル際ニ、
相當ノ議論ガアッテ多少ノ摩擦ヲ生ジ
マシタコトハ御存ジノ通りデゴザイ
マス、目下社會保健省ノ設置將ニ成
ラントシテ居ル際デゴザイマシテ、此
問題ハ何レ新設省ニ於テ適當ニ研究
ヲサレルコトト存ズルノデゴザイマス
ルガ、大體ニ於キマシテ既存保險事業
ト多少ノ衝突摩擦ヲ生ズルコトデゴザ
イマスカラ、慎重ニ研究調査ヲ致シ
マシタ上ニ、實行ヲスル法案ヲ定メ
ルコトガ必要デアラウト考ヘルノ
デアリマス

第三番目ニ保險事業ノ整理統合ヲ圖
リマシテ、之ヲ國營ニ移スヤウナ意
思ハナイカト云フ御尋デアリマスル
ガ、本件ニ付キマシテモ前ノ御質疑
ニ御答申シマシタノと同様ニ、新設
社會保健省ニ於テ考慮サレルコト
デアラウト考ヘルノデアリマスガ、
既ニ今日マデニ此新シキ省ノ設置
ヲ決定サレル場合ニ於ケル根本ノ方
針ト致シマシテ、參與制度ノ如キ
モノヲ設ケテ、慎重ニ總テ

ノ問題ヲ考究スルコトニナッテ居
ルノデゴザイマスルカラ、何レ新設省
ノ設立後ニ於キマシテ、適當ノ解決
ガアルコトト信ズルノデアリマス

最後ニ保險料金ノ引下ヲ考ヘテハ
居ラスカト云フヤウナ御尋デアリ
マスルガ、本件ニ付キマシテハ、經
理ノ成績ニ鑑ミマシテ還付金ノ制度
ヲ設ケマシテ、普通ノ言葉デ申シ
マスルト、料金ノ拂戻デゴザイマス
ルガ、サウ云フ制度ヲ設ケマシテ、
適當ノ年限續ヲ致シマシタ被保險者
ニ對シマシテハ、保險料低減ト同一
ノ效果ヲ奏スルヤウナ措置ヲ執ッ
テ居ルノデアリマス、是ダケ御答
申上ゲマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託
スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致
シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、船員法改
正法律案委員ニ併セ付託セラレ
ンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シ
マシタ——此際陸軍大臣及
ビ海軍大臣ヨリ北支事變ニ關
シ報告ノ爲メ發言ヲ求メラレ
テ居リマス——杉山陸軍大臣

北支事變ニ關スル陸軍大臣海軍大臣ノ報
告

〔國務大臣杉山元君登壇〕

○國務大臣(杉山元君) 本月二十八日以後
ノ平津地方ニ於キマスル戰
闘經過ノ概要ヲ說明致シマス

隱忍ニ隱忍ヲ重ネマシタ我ガ駐屯軍モ、

二十五日夜ニ於キマスル郎坊事件、竝ニ
十六日ニ於キマスル北平廣安門事件等續
發スルニ及ビマシテ、遂ニ支那側ニ於ケル協
定實行ニ誠意ナキモノト認メマシテ、駐屯
軍ハ其任務遂行竝ニ自衛上斷乎トシテ第二十
九軍ヲ騰僞スルコトニ致シマシタコトハ、
既ニ申上ゲタ通りデアリマス

我ガ駐屯軍ノ此決意ハ眞ニ已ムヲ得ザ
ルニ出タモノデアリマシテ、我軍ノ目標ト
致シテ居リマスルモノハ、抗日挑戰ヲ敢テ
致シマシタ支那軍デアリマシテ、決シテ善
良ナル支那ノ民衆ヲ敵トスルモノデア
リマセヌ、隨テ北平ノ城内ニ於キマシ
テモ、支那側ガ挑戰ノ行動ニ出デザル限
リハ、武力ヲ使用セザルハ申スマデモナ
ク、列國ノ權益ヲ尊重シテ居ルノデア
リマシテ、此趣旨ニ依リマシテ、我軍ハ
先ヅ北平ノ周圍ニ在リマスル支那軍
ニ、斷乎タル脅懾ノ鐵槌ヲ加ヘルコト
ニナッタノデアリマス

即チ二十八日ニハ北平ノ郊外ニアリ
マスル西苑、北苑及ビ南苑附近ニ駐屯
シテ居リマス支那軍ヲ擊攘スル如ク行
動ヲ開始致シマシタ、此日早朝ヨリ暴
風雷雨ガ起リマシタガ、我ガ飛行隊ハ
此惡天候ヲ冒シテ出動致シマシテ、西
苑ノ兵營ヲ爆撃ラシテ多大ノ損害ヲ與
ヘマシタ、酒井兵團ハ西苑ノ北方約四
里ニアリマス沙河鎮ノ敵ヲ攻撃シテ、
午前十時半ニ之ヲ占領シ、又鈴木兵團
ハ西苑東北方約一里半ノ清河鎮ヲ攻
撃ラシテ、午後三時之ヲ奪取致シマシ
タ、南苑ニ於キマシテハ川岸兵團、河
邊兵團竝ニ萱島部隊ガ相協力ラシテ、
三方面ヨリ猛烈ニ攻撃ヲ加ヘマシタ、
支那軍ハ早クモ午前八時三十分頃ヨリ
逐次退却ヲ始メマシタノデ、一部ヲ以
テ之ヲ追撃ラ致シマシテ、北平ノ

南側馬村附近ニ於テ殲滅的打撃ヲ加ヘマス
ルト共ニ、尙モ抵抗ヲ持續致シマスル殘敵
ヲ掃蕩致シマシテ、午後六時ニハ完全ニ南
苑ヲ占領致シマシタ

此日八寶山、蘆溝橋方面ノ敵ハ、不遜ニ
モ豐台附近ニ殘テ守備ニ任ジテ居リマシ
タ河邊兵團ノ一部ヲ攻撃シテ來マシタノ
デ、該兵團ノ主力ハ馬村附近ノ戰勝後直チ
ニ轉進シテ豐台ニ歸リ、此敵ヲ攻撃致シマ
シタ次第デアリマス、又天津ニ於キマシテ
ハ、我軍ハ北平ト同様ニ、戰禍ノ巷トスル
ノヲ避ケテ居タノデアリマスガ、支那軍ハ
我が兵力少シト侮テカ、第三十八師ノ一部
ガ保安隊ト共ニ、二十八日夜半ヨリ我が軍
司令部、飛行場等五箇所ヲ攻撃シテ來マシ
テ、猛烈ナル市街戰ヲ演ズルニ至リマシ
タ、併ナガラ翌朝迄ニハ敵ニ多大ノ損害ヲ
與ヘテ、一先ヅ擊退致シマシタ

次デ翌二十九日ニハ北平西方地區ニ於キ
マシテ、我軍ハ再ビ酷熱ヲ冒シテ西苑附近
ニ於ケル敵ノ抵抗ヲ逐次排除シ、前進シ、
河邊兵團ハ午後六時蘆溝橋ヲ完全ニ占領
シ、酒井兵團モ亦午後七時蘆溝橋西北方約
一里永定河東岸ニ在ル衙門口ヲ占領致シマ
シテ、該方面永定河左岸ヲ占領シマシタ、北
平城内ニ於キマシテハ、最初ノ方針ノ如ク、
我ヨリ進ンデ武力ヲ使用スルコトナク、專
心居留民ノ保護ニ任ジテ居リマシタガ、支
那側モ敢テ事ヲ起サズ、第三十七師ノ部隊
ハ二十九日夜間ニ保定方面ニ退却シタモノ
ノ様デ、城内ニハ第三百三十二師ノ二箇團ヲ
殘スノミトナリ、宋哲元モ亦秦德純、馮治
安等ヲ帶同シテ保定ニ遁走シタト傳ヘラレ
テ居リマス、天津方面ニ於キマシテハ、支
那軍ガ依然トシテ執拗ナル攻撃ヲ續ケマシ

タノデ、我軍ハ自衛上已ムヲ得ズ支那軍ノ
占據シテ居リマスル主要地點ヲ爆撃スルニ
決シ、駐屯軍司令部ハ、天津市内ノ治安ヲ
維持シ、居留民ヲ保護スル目的ヲ以テ爆撃
スベキモ、列國ノ權益尊重、居留民ノ保護
ニ關シテハ、最善ヲ期スル旨ヲ聲明シマシ
タル後、二十九日午後ニ至リ、保安總隊

本部、警備司令部等ヲ爆撃シ、多大ノ效果
ヲ收メマシタ、其夜ハ少數ノ敵ガ東站停車
場等ヲ夜襲シテ來マシタガケデ、何レモ直
チニ擊退シタノデアリマス、昨三十日ニ於
テハ、主ナル兵團ガ蘆溝橋對岸ニ在ル長辛
店附近ノ高地ヲ占領スベク、午後一時攻
撃前進ヲ開始シマシテ、午後三時ニハ早
クモ完全ニ目的ヲ達シ、敵ヲ遠ク南方ニ
擊退致シマシタ、又鈴木兵團ノ一部ハ、
北苑ノ殘敵ヲ武裝解除シタノデアリマス、
天津ニ於キマシテハ、佛蘭西租界ガ通行
出來マセヌノデ、支那街ノ一部ヲ掃蕩致
シマシテ、日本租界ヨリ金湯橋ヲ經テ東
站停車場ニ至ル沿線ノ地區ヲ占領シ、其
交通連絡ヲ確保シマシタ、第二十九軍ハ

天津郊外ニ撤退致シマシテ、既ニ積極行動
ニ出ヅルノ意圖ハ消滅シタヤウデアリマス、
尙ホ塘沽ノ對岸大沽ニ居リマスル支那軍モ、
二十八日以來不意ニ我ヲ射撃スル等ノ挑戰
行動ニ出マシタノデ、我が駐屯軍ハ二十九
日海軍ノ協力ヲ得マシテ、猛烈ナル爆撃及
ビ砲撃ニ依リ、多大ノ損害ヲ與ヘテ敵ヲ
沈黙セシメ、翌三十日午前十時過ギニハ完
全ニ之ヲ占領シ、支那軍艦一隻ヲ鹵獲シマ
シタ、通州ニ於テ二十八日冀東保安隊ガ叛
亂ヲ起シマシタノハ事實デアリマシテ、僅
少ナル我が部隊ハ約三千ノ敵ニ包圍サレテ
苦戰ヲ續ケ、飛行隊ノ爆撃ニ依ッテ漸ク圍

ミヲ解カセルコトガ出來マシタ、我が居留
民ノ狀況ハ遺憾ナガラ未ダ真相ガ判明シテ
居リマセヌ、斯クテ天津地方ニ於テハ大ナ
ル支那軍隊ハ潰滅致シマシタガ、尙ホ殘敵
各處ニ蠢動スルアリ、未ダ治安ノ恢復ニハ
相當ノ時日ト兵力トヲ要スルト考ヘル次第
デアリマス

次ニ中央軍ノ北上ノ狀況ニ付テ申述ベマス、
中央軍ハ七月十日前後カラ平漢鐵道ニ沿ヒ、
逐次北上ヲ開始致シマシテ、二十二三日頃
ニハ河北省ニ進入セル兵力約七万ヲ算フル
ニ至リマシタ、是等ノ中央軍ハ、保定カラ以
南、河南省トノ省境附近ニ互ツテ集中シマシ
テ、其前方良鄉、是ハ蘆溝橋ノ南方約四里ノ
所デアルガ、其附近ニ互ル間ニ居リマシタ
所ノ、河北省在來ノ東北軍系デアル、萬福
麟ヤ馮占海ノ軍約三万ト共ニ、昨今逐次前方
ニ詰メ掛ケテ來テ居ル狀況デアリマス、其
後方鄭州附近ニモ各方面ヨリ兵力ヲ集メマ
シテ、現今デハ約十二三万ニ達シテ居リマ
ス、尙ホ津浦鐵道方面デハ、徐州及ビ海州ニ
約四五万ノモノガ居ル外、最近ハ濟南附近
ニモ若干ノ中央軍ガ進入シテ來ル模様デア
リマシテ、中央軍中ノ最精銳部隊デアル南
京軍官學校ノ教導總隊モ既ニ出動シテ居ル次
第デアリマス、又支那ノ空軍ハ未ダ一機モ
天津地方ニ現レテ居リマセヌガ、併ナガラ

隴海鐵道沿線及ビ其以南ノ地區ニ於テ戰鬪
準備ヲ著々實施シテ居リマス、以上ガ昨日
マデノ一般狀態デアリマス
尙ホ茲ニ北平、天津、通州ノ居留民ノ狀
態ニ付テ申上ゲマス、北平ニハ事變前ハ内
國人約二千、鮮人約千九百、合計約四千
ヲ算シタノデアリマシタガ、事變直前ニ其
約五分ノ二ハ他ニ避難ヲ致シマシタ、殘餘

ノ五分ノ三八目下公使館區域ニ收容セラレ
テ居リマス者ガ、内鮮合シマシテ約二千四百
デアリマシテ、其後何等ノ異狀ナク完全ニ
保護サレテ居リマス、天津ニ於キマシテハ、
居留民ハ殆ド全部ヲ租界内ニ收容致シテ居
リマス、現地保護可能ノ見込ノ者ハ現地デ
保護ラシ、天津東南地區ノ住民ハ、危險ヲ慮
リマシテ二十九日ニ租界内ニ收容致シテ居
リマスガ、目下ノ所大ナル被害ガ無イ見込
デアリマス、通州ニ於キマシテハ内地人百
十三、鮮人百八十二名、其他ニ陸軍ノ特務
機關ノ者ガ若干居タノデアリマスガ、是ハ
只今申上ゲマシタヤウニ、冀東保安隊ノ叛
亂ノ爲ニ居留民、特務機關共ニ多數ノ死傷
者ヲ生ジテ居ルヤウデアリマスガ、未ダ確
報ヲ得テ居リマセヌ

今後ノ戰局ノ推移ハ豫斷ヲ許サヌノデア
リマスガ、事態ガ擴大スルカ否カハ、一ニ
支那側ノ態度如何ニ依ルモノデアリマシテ、
現狀ニ於テハ一層事態ガ重大化スルカモ知
レナイノデ、陸軍當局トシテ之ニ對スル用
意準備ニ萬遺憾ナキヲ期シテ居リマシテ、
我が駐屯軍ニ於テモ任務遂行竝ニ自衛上飽
マデモ公明正大、千万人ノ敵我往カンノ意
氣ヲ以テ我が威武ヲ發揚シテ、益々奉公ノ
誠ヲ盡サンコトヲ期シテ居リマス、之ヲ以
テ終リマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 米内海軍大臣

(國務大臣米内光政君登壇)

○國務大臣(米内光政君) 前回御説明致シ
マシテ以來ノ海軍ニ於テ執リマシタ處置等
ニ付テ申上ゲマス
海軍ニ於キマシテハ、主トシテ第三艦隊
及ビ旅順要港部ノ兵力ヲ以テ、支那沿岸及ビ
揚子江方面ノ警備ニ當ラシメ、一部ヲ以テ陸

軍ニ協力セシメラル、ト共ニ、萬一ニ應ズル爲メ所要ノ兵力ニハ移動待機ヲ命ゼラレテ居リマスガ、塘沽ニ於キマシテハ平津方面ノ情況進展ニ伴ヒ、所在ノ支那兵ニ不穩ノ情勢ガアリマシタノデ、同地ノ警備ニ任ジテ居リマシタ我ガ驅逐隊ハ一層警戒ヲ嚴ニシテ居リマシタ所、去ル二十九日支那兵ハ我ニ向ツテ發砲スルニ至リマシタノデ、之ニ應戰シ、所在ノ我ガ陸軍部隊ト協力、同方面ノ支那兵ヲ掃蕩致シマシテ、三十日午後ニ至リ白河下流ノ水路ヲ確保致シマシタ山東及ビ中南支方面ニ於テハ、漸次排日ノ氣勢ガ昂ツテ居リマスガ、警備艦ハ所在ノ帝國官憲ト協力シテ、極力事件ノ波及及ビ發生ヲ防止スルニ努メテ居リマス

第三艦隊司令長官ハ右ノ目的ノ爲メ、去ル二十九日支那側當局者ノ自重警戒ヲ要望スルト共ニ、一般ニ對シテモ此際不祥事件ヲ起スコトナキヤウ戒シムル所ガアツタ次第デアリマス

斯クテ今日マデノ所茲ニ特ニ申上グル程ノ事件ハ起ツテ居リマセス、海軍ト致シマシテハ今後一層警戒ヲ嚴ニシツ、事件ノ擴大波及ヲ抑止スルト共ニ、萬全ノ準備ヲ整ヘテ萬一ニ備ヘ、以テ其任務達成ニ遺憾ナカラシコトヲ期シテ居リマス（拍手）

○議長（小山松壽君） 日程ニ入リマス、日程第二、軍機保護法改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——海軍大臣

第二 軍機保護法改正法律案（政府提出、貴族院送付） 第一讀會

軍機保護法改正法律案 軍機保護法

第一條 本法ニ於テ軍事上ノ秘密ト稱スルハ作戰、用兵、動員、出師其ノ他軍事上秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件ヲ謂フ

前項ノ事項又ハ圖書物件ノ種類範圍ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ秘密ヲ公ニスル目的ヲ以テ又ハ之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル目的ヲ以テ前項ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ四年以上ノ懲役ニ處ス

第四條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五條 偶然ノ理由ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

偶然ノ理由ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第六條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

情ヲ知リテ前項ノ團體ニ加入シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ他人ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲ニ必要アルトキハ命令ヲ以テ左ニ掲グルモノニ付測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複製若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

一 軍港、要港又ハ防禦港

二 堡壘、砲臺、防衛所其ノ他ノ國防ノ爲建設シタル防禦營造物

三 軍用艦船、軍用航空機若ハ兵器又ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣所管ノ飛行場、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲ニ必要アルトキハ命令ヲ以テ前條第一項ノ防禦營造物又ハ軍事施設ノ周圍ノ地域ニシテ陸軍大臣又ハ

海軍大臣所管ノモノニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複製若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者亦前條第二項ニ同ジ

第十條 許可ヲ得ズ若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ詐僞ノ方法ヲ以テ許可ヲ得テ第八條第一項第二號若ハ第三號ニ掲グルモノニシテ同條ノ禁止若ハ制限ニ係ルモノ又ハ前條第一項ノ區域ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第八條第一項又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反スル行爲ヨリ生ジタル圖書物件ヲ他人ニ交付シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ圖書物件ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ交付シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ防空其ノ他國土防衛ノ爲軍事上ノ秘密保護ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ空域、土地又ハ水面ニ付區域ヲ定メ左ニ掲グル行爲ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

一 其ノ區域ニ於ケル航空

二 其ノ區域内ノ氣象ノ觀測又ハ其ノ區域内ノ水陸ノ形狀若ハ施設物ノ狀況ノ測量若ハ空中、高所ヨリノ撮影又ハ其ノ複製若ハ複製

前項第一號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處シ同項第二號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制

限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一項第二號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反スル行為ヨリ生ジタル圖書ヲ他人ニ交付シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ圖書ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ交付シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ演習又ハ兵器實驗等ニ際シ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ演習又ハ實驗等ヲ行フ空域、土地又ハ水面及其ノ周圍ノ地域ニ付區域及期間ヲ定メ之ニ出入スルコトヲ一時禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ開港場以外ノ水面ニ付區域ヲ定メ外國船舶ノ之ニ出入スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ五年以下ノ懲役又ハ三百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ情狀重キトキハ其ノ船舶ヲ沒收ス

第十五條 第二條乃至第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第四項及第十三條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十六條 第二條乃至第五條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二條乃至第五條ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者亦前項ニ同ジ

第十七條 第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第四項又ハ第十三條第二項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ得タル財物ハ犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ沒收ス其ノ財物ガ犯人以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十九條 第二條乃至第五條、第七條、第八條第二項、第九條第二項、第十一條又ハ第十二條第二項乃至第四項ニ規定スル犯罪行為(未遂罪ノ場合ヲ含ム)ヲ組成シタル物又ハ其ノ犯罪行為ヨリ生ジタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハズ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

前項ノ沒收ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 第二條、第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十二條第二項、第十五條又ハ第十六條第一項ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス

十二條第二項乃至第四項及第十五條乃至前條ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

刑法施行法第二十六條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 削除

(國務大臣米内光政君登壇)

○國務大臣(米内光政君) 只今上程セラレマシタ軍機保護法改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明申上ゲマス、軍事上ノ秘密ヲ保護スルコトハ、時ノ平戰ヲ問ハズ、國土防衛上緊要ナルノミナラズ、特ニ有事ニ際シ敵ヲ奇襲スル所以デアリマシテ、戰勝ノ一大要因タルコトハ、古今東西ヲ通ジテ不變ノ鐵則デアリマス、殊ニ近時ニ於ケル科學ノ進歩ト戰爭技術ノ變遷トハ、益々軍機ノ種類、範圍ト、是ガ保護ノ必要性トヲ増大スルニ至ラシメタデアリマス、即チ各國ハ平時ヨリ多大ノ犠牲ヲ拂ツテ、極秘裡ニ作戰、用兵、動員又ハ出師等ノ諸計畫、編成、裝備、教育、訓練、艦船、兵器等ヲ研究整備シテ、一朝有事ニ際シ有ユル局面ニ於テ奇襲的効果ヲ得ルコトニ腐心シテ居リマスト共ニ、他面競ウテ外國ノ軍事上ノ秘密ヲ諜知スル爲メ、膨大ナル組織ト巧妙ナル科學的手段トヲ以テ、一片ノ秘密取得ニ數万金ヲ惜マザルガ如キ實情デアリマシテ、最近ニ於ケル國際情勢ノ險惡化ニ伴ヒ、其傾向益々甚シキヲ加ヘテ參リマシタ、然ルニ現行軍機保護法ハ約四十年前以前ノ制定ニ係リ、之ヲ以テシテハ到底現代ノ諜報戰ニ對應スルコト不可能トナツタバカリデナク、其刑名、刑期等

ハ舊刑法所定ノモノニ係ル等、不備缺陷多キヲ以テ、改正案ヲ第七十議會ニ提案シ、本院ニ於テハ委員會ノ通過ヲ見タル次第デアリマスガ、議會解散ノ爲メ協賛ヲ得ルコトガ出來マセヌデシタノデ、本議會ニ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒速ニ御審議ノ上御協賛アラントラ希望致シマス(拍手)

(司法大臣ガ居ナイト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 司法大臣ハ病氣引籠中トノコトデアリマス、司法政務次官ハ出席致シテ居リマス——質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——三田村武夫君

(三田村武夫君登壇)

○三田村武夫君 本案ハ既ニ前議會ニ於キマシテ、各方面カラ審議サレテ居リマスノデ、私ハ極メテ簡單ニ二三ノ點ヲ御尋致シタイト思ヒマス、第一ニ私ハ陸海軍大臣ニ御伺致シマス、只今陸軍大臣ガ北支事變ノ其後ノ狀況ヲ御説明ニナリマシタガ、北支ノ風雲愈々急告ゲマシテ、所謂戰時體制ニ入ツタモノト私達ハ考ヘルノデアリマス、此際此議會ニ於キマシテ軍機保護法ノ審議ヲ致シマスコトハ、私ハ洵ニ意義ナシトシナイノデアリマス、就キマシテ私ハ昨年ノ特別議會ニ御提出ニナリマシタ國家總動員秘密保護法案ヲ、此議會ニ御提出ニナラナカッタ御趣旨ヲ先ツ御伺シタイノデアリマス、ト申シマスノハ、今日此戰時體制下ニ於キマシテ、國防上保護シナクチャナライ軍事上ノ機密ハ、所謂狹義ニ於ケル軍事ノ機密ノミニ止ラナイト思フノデアリマス、作戰用兵、軍隊ノ編成、軍機ノ機密ニ關シテハ、固ヨリ嚴重ナル機密ノ保持ヲ必要ト致シマスガ、今日ノ所謂近代戰ハ私ガ申上ゲ

ルマデモナク、單ナル武力戰ナクシテ國力戰デアリマス、狹義ノ軍事上ノ機密ヲ保護スルコトノミニ依テ、國力ノ全體ガ茲ニ保護サレモモノデハナイノデアリマス、國力戰デアリマスナラバ、所謂廣義國防ノ見地カラ國力ノ總和デアリマス、而モ戰ニ重大ナル關係ヲ持チマス所ノ産業計畫、即チ經濟戰、思想戰ニ必要ナ有ル機關ノ機密ガ保護サレナクチャナラナイと思フノデアリマス、昨年ノ特別議會ニ於キマシテハ、此國家總動員機密保護法ガ非常ニ不評判デアッタノデアリマス、ソレハ此法案ノ運用如何ニ依ッテハ國民ノ自由ニ至大ナル惡影響ヲ及ボス、斯ル懸念ノ下ニ不評判デアッタノデアリマ

私ハ政府全體ニ一言致シテ置キタイと思フノデアリマス、戰時體制下ニ於ケル國政ノ運営ハ、總テ一體ニナラナクチャナラヌト思フノデアリマス、今日東亞ノ現勢ガ斯ノ如ク紛糾シ、日本ガ對外的ニ苦難ヲ嘗メテ居リマス根本ノ原因ハ、固ヨリ支那ノ暴戾極マル排日抗日ニエッタノデアリマスガ、併シ吾々ハ國民トシテ、政治家トシテ大イニ反省シナクチャナラヌ事實モアッタコトヲ知ルノデアリマス、ソレハ國內ニ於テ徒ナル抗爭ヲ繰返シ、日本自ラ國內ノ不統一ヲ彼等ノ前ニ暴露シタ其實ガ、支那ヲシテ益、排日抗日ノ思想ヲ助長セシメタノデアリマス、デアリマスカラ今日此戰時體制下ニ於テ特ニ考慮サレベキ問題ハ、國民總動員ノ形態ニ於テ、國民ノ所謂思想動員、國民ノ全思想ヲ國家目的ノ爲ニ統一シ運営スル、強化スルト云フ點ヲ、特ニ御考慮願ヒタイと思フノデアリマス

第三ニ私ハ内務大臣ニ御伺致シマス、本案ハ言フ迄モナク所謂「スパイ」ノ取締法案デアリマス、併シ「スパイ」ト申シマシテモ色色アリマシテ、中々難カシイノデアリマスガ、實際吾々ガ聞及フ範圍ニ於キマシテ、甚ダ遺憾ニ堪ヘナイと思ヒマスコトハ、社會ノ上層階級ニ於ケル外人トノ交遊デアリマス、私ハ如何ニ法律ヲ整備シ、形ヲ整ヘテ見テモ、漏レル所カラ漏レ、バ無意義ダト思フノデアリマス、嘗テ倫敦海軍條約ノ折ニ、或ハ國際聯盟脫退ノ際ニ於ケル日本ノ對外方針ガ、海外ニ頻々ト漏レタコトヲ私達ハ聞及ンデ居ルノデアリマス、彼等ハ或ハ長イ外國生活ノ體驗カラ、或ハ古い交遊關係カラ、常ニ外部ノ人ト接觸ラシテ居リマス、或ハ不用意ノウチカモ知レマセヌ

ガ、中ニハ自己ノ地位ヲ保持センガ爲ニ、往々ニシテ國內ノ好マシカラザル事マデ傳ヘル者ガナシトシナイノデアリマス、此點ニ對シテ如何ナル御所見ヲ御持チデアリマスカ、私ハ今回提案ニナッテ居リマス此軍機保護法ガ嚴重ニ施行サレマス時、國民ハ相當大キナ苦痛ヲ感ズルト思フノデアリマス、國民ガ全部相當ノ犧牲ト忍苦ラ拂ッテモ、タツタ一ツモット高度ノ場所カラ漏レルモノガアリマスカナラバ、私ハ全く無意義ダト思フノデアリマス、尙ホ私ハ茲ニ内務當局ノ御考慮ヲ煩シタイと思フノハ、國際主義ヲ飽マデモ遵奉スル社會主義陣營ノ組織活動デアリマス、私ハ今日ノ日本ニハ斯ノ如キ組織活動ガ無イコトヲ希ヒ且ツ確信致シテ居リマスガ、國際關係ガ險惡ニナレバナル程、彼等ノ蠢動ハ益々盛ニナルノデアリマス、ソレビエト「露西亞」ノ所謂人民戰線ノ思潮、其思潮ノ線ニ依ッテ動ク各國ノ社會主義陣營ハ、必然ノ勢ト致シマシテ國際的ナ組織ヲ持チマシテ、サウシテ彼等ハ所謂非戰論ヲ唱ヘテ、有ユル角度カラ本國ノ利益ヲ擁護シヨウトシナイノデアリマス、デアリマスカラ特ニ斯ノ如キ對外關係ノ緊迫シタ折ニ於キマシテハ、此國際主義ヲ飽マデモ遵奉スル社會主義陣營ノ組織活動ニ付テハ、嚴重ナル取締ヲ切望シテ已マナイノデアリマス、此點ニ付テ如何ナル御所見ヲ御持チデアリマスカ、内務大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス

次ニ私ハ外務大臣ニ御伺シタイノデアリマスガ、是モオ居デガナイヤウデアリマスカラ簡單ニ申上ゲテ置キマス、此「スパイ」ノ取締ト云フノハ非常ニ重要デアリマスカ、是ハ積極ト消極ト二ツノ方面ガアリ

マシテ、此內地ニ於ケル外國ノ「スパイ」、所謂諸列國ノ諜報機關ヲ取締ルト云フコトガ一つト、同時ニ考慮サレナクテハナラナイ問題ハ、我國ニ於ケル其機關ノ整備デアリマス、御承知ノ如ク滿洲ハ國際「スパイ」ノ活躍舞臺デアリマシテ、滿洲ニ於キマシテハ日本ノ有ユル行動ヲ彼等ハ聽取セント活躍シテ居ルノデアリマス、其滿洲ニ於ケル日本ノ所謂警察機關ノ狀態ヲ見マスルト、甚ダ私ハ不可解ナ點ガアルノデアリマス、ト申シマスノハ、御承知ノ如ク滿洲ニハ外務大臣ノ監督下ニアリマス駐滿全權大使ト云フモノガアリマス、其下ニ領事館ノ警察ガアリマス、一方關東局ノ下ニハ關東局ノ警察官ガ居リマス、尙ホ憲兵警察ガアリ、滿洲國ノ警察ガアリ、四ツモ五ツモ輻湊シテ居ルノデアリマス、私ハ或ル意味ニ於テ斯ノ如ク輻湊シタ警察機關ノアルコトヲ好マシク思フコトモアリマスガ、大體ニ於テ甚ダ複雑デアリ、不統制ニ終ルノデアリマス、滿洲ガ今日日本ノ生命線トシテ國際「スパイ」ノ活躍舞臺ニナッテ居リマス現狀ニ鑑ミマシテ、私ハ滿洲ニ於ケル此警察機構ノ整備ト云フコトハ、最モ留意シナクレバナラヌ問題デアルト思フノデアリマス、此點ニ付テ外務當局ノ御所見ガ伺ヘマスレバ甚ダ結構ダト思フノデアリマス

尙ホ私ハ第五點ト致シマシテ拓務大臣ニモ御伺シタイノデアリマスガ、オ居デガナイヤウデアリマスカラ簡單ニ致シマス、唯一言政府當局ニ申上ゲテ置キマス、今日ノ此東亞ノ重大時局ハ、吾々ノ見解ヲ以テ致シマスカラバ、尙ホ暫ク膠著狀態ニ居ルコトト思ヒマス、政府當局ノ不擴大、局地解決方針モ、遂ニ其努力ガ酬ヒラレズ、益々

カラ省路致シマス、唯一言致シマスノハ、

決方針モ、遂ニ其努力ガ酬ヒラレズ、益々

擴大ノ一途ヲ迎リツ、アルノデアリマス、此現狀ニ於テ尙ホ一層時局ガ重大化シタ際、朝鮮、臺灣、南洋方面ニ於ケル治安ニ付テ、一體安心シテ吾々ガ居レルカドウカ、私ハ此點ヲ深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、ドウカ此方面ニ於キマシテモ、此軍機保護法ノ制定ヲ機會ト致シマシテ、十分ナル取締ノ組織機關ヲ整備サレンコトヲ望シテ、私ノ質問ヲ終リタイト思ヒマス

〔國務大臣米内光政君登壇〕

○國務大臣(米内光政君) 三田村君ニ御答致シマス、國家總動員、頗ル範圍ガ廣イヤウデアリマスルガ、特ニ此際必要トスルモノニ付テ研究中デアリマス

〔國務大臣馬場鐵一君登壇〕

○國務大臣(馬場鐵一君) 三田村君ノ御質問ニ御答ヲ申上ゲマス、社會上層部ノ者ガ折ニ觸レテ秘密ヲ洩スルト云フヤウナコトハ、私モ聞カナイコトデアリマセス、甚ダ遺憾ナ次第デアリマス、是ハ宜シク各人ノ自省ニ俟ツベキモノダト思ヒマス、之ヲ法規ノ下デ取締ルト云フ特別ノ手續ハナイト思ヒマス、第二ノ御質問ハ、共產主義其他サウ云フ主義ガ國際主義的ニ色々活動スル、之ニ對シテ警察上ノ査察ニ付テノ御注意的御質問ダラウト思ヒマス、斯ウ云フコトハ斯ル時局ノ上ニ於テハ特ニ必要ガアルト思ヒマス、内務省ニ於テハ此點ニハ日頃努メテ居リマスガ、斯ウ云フ時局ニ於テハ一層注意致ス積リデアリマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三、兵役法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——陸軍大臣

第三 兵役法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

兵役法中改正法律案

第十九條ノ二 特ニ必要アルトキハ第十九條ニ規定スル未入營期間ノ外概ネ三月以内ノ未入營期間ヲ置クコトヲ得此

ノ場合ニ於テハ當該期間ニ相當スル期間以内現役期間ヲ延長スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ豫備役期間ニ之ヲ通算ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣杉山元君登壇〕

○國務大臣(杉山元君) 兵役法中改正法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ヲ説明致シマス、現在陸軍ノ現役兵ハ種々ノ關係カラ、輻輳兵特務兵ノ如キ短期在營者ハ別ト致シマシテ、一般ノ者ハ十二月一月及び三月ニ入營スルコトニナッテ居ルノデアリマスガ、現行兵役法ノ關係上、其中十二月及び一月ニ入營ヲ致シマス者ノ現役ハ、十二月カラ始メテ居リマシテ二箇年ト云フコトニナッテ居リマス、三月入營ノ者ハ三月カラ始マリマシテ二箇年ト云フコトニナッテ居リマス、此現役ノ始マル時期ニ差ガアリマスル事柄ハ、其者ノ豫備役、後備役ヲ含ム全服役ニ

互リマシテ、其服役及ビ各年次ノ移變リ時期ニ差異ヲ生ズルノデアリマシテ、此人員ガ多數ニ上リ、殊ニ其數ガ漸次多クナリマスル關係上、取扱方頗ル困難トナッテ參ルノデアリマス、而シテ此取扱ノ困難ニナリマスル事柄ハ、動員ノ準備ヲ致シマスル上ニ於キマシテ至大ノ關係ヲ持ッテ居ルノデアリマシテ、此儘推移致シマシタナレバ、動員部隊ノ素質ニ累ヲ及ボス虞ガ益々大クナッテ參ル狀態デアリマス、隨テ十二月又ハ一月ニ入營シマスル者モ、三月ニ入營シマスル者モ、其服役上ノ取扱ハ一樣ニ致シマシテ、何レモ十二月カラ其現役ガ始マリマシテ、隨テ服役及ビ各年次ノ移變リガ一樣ニ行ハレルヤウニシマシテ、動員準備上ニ缺陷ヲ生ゼシメナイヤウニ致シタイト存ズルノデアリマス、即チ三月ニ入營シマスル者ノ現役ノ始マリヲ、三月トスルコトナク、ヤハリ十二月ニ現役ニ就カシメマシテ、三月マデノ間ハ未入營期間トシテ置キ得ルヤウニ法律ノ改正ガ出來レバ、各人ノ義務負擔ニハ殆ド影響ガナク、其目的ヲ達シ得ルノデアルト考ヘテ居リマス、今回本法草案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ハ以上申述ベタ通りデアリマス、何卒慎重審議ノ上協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——野溝勝君

〔野溝勝君登壇〕

○野溝勝君 私ハ兵役法ノ改正ニ關聯致シマシテ、簡單ニ當局ニ質問ヲシテ見タイト思フノデアリマス、軍事扶助法ノ適用、竝ニ出征兵士ノ家族生活保障ノ問題ニ付テ御同致シマス、從來ノ軍事救護法ガ、七十議會デハ軍事扶助法ト改正サレタノデアリマ

ス、サウシテ其適用範圍ガ擴大サレマシタ、軍事扶助法ニ依レバ、方面委員ノ手ヲ經タリ、或ハ市町村自治體ノ手ヲ經テ、地方長官ニ上申スルコトニナッテ居ッテ、其手續ガ中々煩瑣デアッタノデアリマス、又其精神ニ於キマシテモ多分ニ救恤的デアルトカ、或ハ慈善的デアルトカ云フヤウナ意味ガ含マレテ居ッタカノ如ク吾々ハ見テ居ルノデアリマス、斯ノ如キ言葉ト申シマセウカ、無意義ナ言葉ヲ使フ觀念デ之ヲ處理セントスルコトハ、現内閣ガ唱ヘテ居ル所ノ社會正義ノ理念ト云フコトニ反シハシナイカト思フ者デアリマス、故ニ吾々ハ國家ノ爲ニ一身ヲ挺シテ、重大使命ヲ爲シテ居ル所ノ出征兵士ニ對シマシテハ、後顧ノ憂ナカラシムルコトガ最も緊急事デハナイカト思ヒマス、特ニ現下ノ國民生活ノ不安定ノ情勢下ニ於キマシテハ、是等家族ニ對シマシテ國家ガ不安ナカラシムルコト云フコトハ、最も深く考ヘナケレバナラヌ點デアルト私ハ思ヒマス、出征兵士ノ家族ニ對シ、生活保障ノ爲ニ、是ハ私等ノ私案デアリマスケレドモ、一家族當テ月額五十圓ヲ國庫ヨリ支給シ、毎月末日ニ聯隊區司令官ヲ經テ現金ヲ以テ交付シ、且ツ或ハ官公署、其他ノ會社、商店等ニ於ケル従業員及ビ工場其他ノ業務ニ從事シテ居ル所ノ者ガ應召サレルヤウナ場合ハ、官公署或ハ雇傭主ハ是等應召者ノ俸給賃金全額ヲ支給セシメ、或ハ除隊ノ際ニ於ケル就職等ニ對シテモ、保障ヲセシムルヤウナ法律ヲ制定シテ貰ヒタイト思フノデアリマス、其趣旨ノ決議案ヲ今議會ニ提唱シテ居ルノデアリマスガ、政府ハ是等ノ趣旨ヲ統一一致シマシテ、出征兵士家族ノ保障ヲスル所ノ手段ヲ講ズル意思アリ

ヤト云フコトヲ御聴キシタイト思フノデアリマス

最後ニ申上ゲテ置キタイコトハ、多クノ先輩議員諸君カラモ度々言ハレテ居ルコトデアリマスガ、軍部ニ於キマシテハ廣義國防ヲ提唱シテ居ル立前カラ見マシテモ、現下ノ國民ノ經濟情勢ガ、ドンナ關係ニ在ルカト云フコトハ、篤ト御諒承ノコトト思フノデアリマス、左様ナ點カラ見マシテモ、出征兵士ノ家族ノ後顧ノ憂ナカラシムル爲ニ、政府ハ相當ノ考ヲ持ッテ居ラル、ト思フノデアリマスガ、其點ニ付キマシテ特ニ御答辯ヲ御願シタイト思ヒマス

(國務大臣杉山元君登壇)

○國務大臣(杉山元君) 野溝君ノ御尋ニ對シマシテ御答致シマス、出征兵ノ家族ヲシテ、出征兵ヲシテ遺憾ナカラシムル如ク後援ヲ十分ニスルト云フ趣旨ニ付キマシテハ、全然御同意デアリマス、此點ニ付キマシテハ、制度ト致シマシテハ、只今野溝君ノ言ハレタ如ク、軍事扶助法ガ立テラレテ居ルノデアリマスガ、其實行上ニ於テ煩多ナコトガアルト云フ御話デアリマスルガ、是等ノ點ニ付キマシテハ、尙ホ内務當局ト其實行上ニ於テ御意圖ニ副フヤウニ協力ヲシテ行キタイト存ジテ居リマス、併ナガラ此軍事扶助法ハ、或ル一部ノ者ニ特定ヲサレテ居ルノデアリマシテ、只今御話ノ如キ應召ノ者全部ニ對シテ實行スルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、社會團體其他ノ團體ノ努力ニ依リマシテ、其心持ヲ十分ニ發揮致シタイト云フコトニ考ヘテ居リマシテ、此點ニ付キマシテハ、既ニ内務當局ヨリモ此心持ガ普及致シマスルヤウニ、ソレノ手續ヲ執ラレテ居ルヤウニ聞及ン

デ居リマス、私カラ御答申上ゲルノハソレダケデアリマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部晴市君 本案ハ政府提出、軍機保護法改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第四乃至第六ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第四、裁判所構成法中改正法律案、日程第五、大正十年法律第二百二號中改正法律案、日程第六、刑事訴訟法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——司法政務次官久山知之君

第四 裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第五 大正十年法律第二百二號中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第六 刑事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

裁判所構成法中改正法律案

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第二十五條ノ二中「豫審判事」ヲ「判事」ニ改ム

第二十五條及第二十五條ノ二ニ改ム

第七十四條ノ二 大審院長年齡六十五年其ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齡六十三

年ニ達シタル場合ニ其ノ時期カ十二月一日ヨリ五月三十一日マテノ間ナルト

キハ五月三十一日六月一日ヨリ十一月三十日マテノ間ナルトキハ十一月三十

日ニ於テ各、退職トス但シ控訴院又ハ大審院ノ總會ニ於テ三年以内ノ期間ヲ

定メ仍在職セシムヘキモノト決議シタルトキハ其ノ期間満了ノ時ニ於テ退職

トス

第八十條ノ二 檢事總長年齡六十五年其ノ他ノ檢事ノ職ニ在ル者年齡六十三

年ニ達シタル場合ニ其ノ時期カ十二月一日ヨリ五月三十一日マテノ間ナルトキ

ハ五月三十一日六月一日ヨリ十一月三十日マテノ間ナルトキハ十一月三十

日ニ於テ各、退職トス但シ司法大臣ハ三年以内ノ期間ヲ定メ仍在職セシムルコト

ヲ得

第八十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

大審院大審院檢事局控訴院及控訴院檢事局ノ書記課ニ書記長ヲ置ク地方裁判

所及地方裁判所檢事局ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第四百四十條中「原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ」ノ下ニ「第四百四十八

條ノ二ノ場合ヲ除クノ外」ヲ加フ

第四百四十三條中「上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ」ノ下ニ「第四百四十八

條ノ二ノ場合ヲ除クノ外」ヲ加フ

第四百四十八條中「第四百四十九條及第四百五十條」ヲ「第四百四十八條ノ二乃至第四百五十條」ニ改ム

第四百四十八條ノ二 上告裁判所事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヘキ法令ノ違反アリト認メ又ハ第四百十二條乃至第四百

十四條ニ規定スル事由アリト認ムル場合ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラストスルトキハ判決ヲ以テ原判決

ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

前項ノ差戻又ハ移送アリタル事件ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判

事ハ其ノ裁判ニ關與スルコトヲ得

第四百五十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト爲ス上告ノ趣意ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員久山知之君登壇)

○政府委員(久山知之君) 曩ニ議長カラ御

述ニナリマシタ通り、司法大臣昨晚カラ病氣ノ爲ニ引籠中デアリマシテ、甚ダ遺憾デアリマスガ、私カラ提案理由ノ説明ヲ致シマス

裁判所構成法中改正法律案デアリマスガ、本改正案ハ三箇ノ事項ニ付テ改正セントスルモノデアリマシテ、第一點ハ地方裁判所ノ判事ノ代理ノ範圍ヲ擴張セントスルモノデアリマス、現行規定ニ依リマス、豫審判事ニ付テ一定ノ場合ニ控訴院長ガ其管轄區域内ニ於テ適當ニ代理ヲ命ズルコトヲ得ルヤウニナッテ居リマス、裁判事務ノ現狀ニ鑑ミマシテ、右代理ノ範圍ヲ豫審事務ニ止ラズ、一般ノ裁判事務ニ付テ擴張致シマシテ、由テ以テ事件ノ處理ノ適正迅速ヲ圖ルコトヲ必要ト考ヘタノデアリマス

第二點ハ判檢事ノ定年ニ因ル退職ノ時期ヲ調整致シマシテ、年二回定期ニ纏メテ退職セシメントスルモノデアリマス、現行ノ規定ニ依リマス、判檢事ガ定年ニ達シタル時ハ、其時々々ニ於テ個々別々ニ退職スルコトニナッテ居リマス、人事行政ノ支障ガ少クナイノデアリマス、此支障ヲ除ク爲ニ本改正ヲ爲サントスル次第デアリマス

第三點ハ控訴院檢事局ノ監督書記ヲ奏任タル書記長ニ昇格セシメントスルモノデアリマシテ、之ニ依リ控訴院ノ書記長ト均衡ヲ得シムルト同時ニ、裁判所書記ノ向上ノ途ヲ開カントスル趣旨デアリマス

官報號外

昭和十二年八月一日

衆議院議事速記第七號

裁判所構成法中改正法律案外二件 第一讀會

限年齢ニ達シタ後、退官、退職スル場合ニ於キマシテ、其恩給年額ハ文官ノ普通恩給年額ニ百分ノ三十ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ給與セラレテ居ルノデアリマスガ、右年齢ニ達スル以前ニ於キマシテ退官又ハ退職致シマシタ者ハ、前述ノ増加恩給ヲ支給セラレナイノデアリマシテ、隨テ右ノ資格ヲ有スル判事、檢事ニシテ、定限年齢ニ達スル以前ニ退官又ハ退職致シ、後進ニ途ヲ開クト云フコトモ出來ナイヤウナ狀態ニナッテ居リマス、仍テ茲ニ本法ニ定ムル年齢ヲ低下致シマシテ滿六十年ト爲シ、前述ノ資格ヲ有スル判事、檢事ガ其ノ年齢ニ達シマシタ後、退官、退職致シマシタ場合ニ於キマシテハ、恩給年額ハ文官ノ普通恩給年額ニ百分ノ三十ヲ加ヘタルモノヲ給與スルコトニ致シマシテ、比較的高齡者ノ勇退ヲ圓滑ニシ、新進有爲ノ者ノ進出ヲ容易ナラシメ、以テ司法部内人事ノ刷新ヲ圖ラントスルモノデアリマス

次ハ刑事訴訟法中改正法律案デアリマスガ、大正十三年一月一日カラ施行ニナリマシタ現行刑事訴訟法ニ於キマシテハ、上告ノ理由ト致シマシテ、法令違反ノ外一定ノ場合ニハ、事實ノ認定及ビ刑ノ量定ニ付キマシテモ、亦之ヲ爭フコトガ出來ルコトニナッテ居リマス、而シテ事實ノ誤認又ハ刑ノ量定不當ヲ上告ノ理由トシタ場合、竝ニ事實ノ認定ニ影響ヲ及ボスベキ法令ノ違反ヲ上告ノ理由トシタ場合ニ於キマシテハ、上告裁判所自ラ事實ノ審理ヲ爲スベキモノト致シテ居ルノデアリマス、所ガ上告裁判所ニ於ケル事實審理ノ狀況ヲ見マスルト、上告裁判所ノ所在地ト被告人ノ住所ト、又ハ犯罪地トガ相隔ツルコト遠イガ爲ニ、

證人、鑑定人等ノ訊問ノ爲メ上告裁判所ニ其出頭ヲ求メルニ致シマシテモ、亦上告裁判所ガ現場ニ出張シテ檢證ヲ爲スニ致シマシテモ、不便ナ場合ガ屢、生ズルノデアリマス、又事實ノ誤認及ビ刑ノ量定不當ヲ理由トスル上告ニアリマシテハ、其上告理由ガ頗ル多岐多様ニ互リマシテ、上告趣意書ニハ幾多ノ事實問題ガ巨細ニ掲ゲラレマシテ、浩瀚ナル上告趣意書ガ差出サレル傾向ニナッテ居ルノデアリマス、而シテ刑事訴訟法上、上告裁判所ノ判決書ニハ、上告ノ趣意及ビ重要ナル答辯ノ要旨ヲ全部記載セネバナラスコトニナッテ居リマス、上告裁判所ト致シマシテハ、判決ヲ爲スニ當リマシテ、誠ニ必要以上ノ力ヲ用ヒテ居ルヤウナ實情デアリマス、仍テ茲ニ裁判所並ニ訴訟關係人ノ便益ヲ考慮致シマシテ、上告裁判所ニ於ケル事實審理ノ制度ニ改正ヲ加ヘンガ爲ニ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、即チ改正ノ第一點ハ、從來上告裁判所ガ自ラ事實ノ審理ヲ爲サナケレバナラス場合ニ於キマシテモ、上告裁判所自ラ事實ノ審理ヲ爲スコトガ適當デナイト思料シタ場合ニハ、原判決ヲ破棄シテ事件ヲ元ノ裁判所ニ差戻スカ、又ハ元ノ裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトガ出來ルヤウニ改メタコトデアリマス、改正ノ第二點ハ、上告裁判所ガ判決書ヲ作成スルニ當リマシテ、事實問題ニ關スル上告ノ趣意ハ、其一部ヲ判決書ニ記載スルコトヲ省略スルコトガ出來ルヤウニ改メタコトデアリマス

以上三案共御承知ノ通り既ニ前議會ニ於キマシテ、本院ニ於キマシテ、委員會、本會議共通過ヲ致シタ法案デアリマス、何卒慎重御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレシコトヲ御願申上ゲル次第デアリマス

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——平川松太郎君

(平川松太郎君登壇)

○平川松太郎君 私ハ只今提案ニナリマシタ法案ニ關聯致シマシテ、内務大臣並ニ司法當局者ニ人權蹂躪ニ關スル質問ヲ試ミタイト考ヘマス、近頃全國ニ互テ人權蹂躪ガ行ハレテ居ルノデアリマス、殊ニ神奈川縣下ニ於キマシテハ、其最モ甚シキモノガアルノデアリマス、故ニ私ハ主トシテ此神奈川縣下ニ於ケル拷問事件、人權蹂躪ノ件ニ付キマシテ質問ヲ試ミタイト考ヘルノデアリマス、神奈川縣ハ齋藤内閣當時デアリマシタガ、時ノ警察部長相川君ガ赴任ヲ致シマスルヤ、其部下デアリマシタ所ノ、曾テ警視廳ノ警部、其當時ハ原宿カノ警察署長ヲ勤メテ居タル加藤道雄ト云フ人ヲ拔擢致シマシテ警視ト爲シ、神奈川縣ノ刑事課長ニ据エタノデアリマス、此刑事課長赴任以來、神奈川縣ニ於キマシテハ有ユル犯罪ニ、其捜査ノ任ニ當リマシテ、悉ク人權蹂躪ヲ行ツタノデアリマス、即チ加藤刑事課長ガ縣ノ刑事數名ヲ引連レマシテ、何レノ犯罪ニモ捜査ノ任ニ當ツタノデアリマス、是ヨリ以來神奈川縣ニ於キマシテハ、選舉違反ハ勿論デアリマス、選舉違反以外ノ犯罪、或ハ瀆職罪若クハ放火事件、斯ノ如キ犯罪ニ人權蹂躪ノ伴ハナカッタ所ノ檢舉ハ一ツモナカッタノデアリマス、最近ノ問題ハ神奈川縣ノ放火事件デアリマス、此放火事件ハ神奈川縣松田町ヲ中心ト致シマシタ所ノ各村落ニ互リマシテ、昭和七八年ノ頃ニ火災ガ頻々トシテ發生シタノデアリマス、其當時ハ失火罪トシテ檢舉セラレタ者モアリマシタガ、

或ハ放火デハナイカト云フ嫌疑ノ下ニ、保險外交員、即チ保險「ブローカー」數名ヲ檢舉シタノデアリマス、此數名ヲ檢舉致シマシテ、數名ニ止メテ他ハ擴大シナイト云フ方針デアッタノデアリマスルガ、時ノ檢事正ト時ノ主任檢事、奥田檢事トノ意見ガ相違致シマシテ、遂ニ奥田檢事ハ浦和地裁裁判所ニ轉任ヲ致シマシタ、其後ニ神奈川縣ノ警察部刑事課ヲ總動員致シマシテ、サウシテ犯罪捜査ノ任ニ當ラシメタ、其結果起訴セラレタ所ノ人員ガ百八十三名デアリマス、百八十三名中二名ハ獄中ニ於テ拷問ニ堪ヘ得ズ、遂ニ悲惨ナル最期ヲ遂ゲタノデアリマス、サウシテ残り百八十一名ノ中デ九十名ハ、本年ノ六月ニ至リマシテ豫審免訴ノ決定ヲ與ヘラレタノデアリマス、残り九十一名ガ有罪ナリトシテ公判ニ付スルト云フ決定ニ相成ッタノデアリマス、此九十名ガ豫審免訴ニナッタ、此事實ニ徴シマシテモ、如何ニ司法警察官若クハ檢事ガ人權蹂躪シタカト云フコトニ付キマシテハ、親ヒ知ルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス（拍手）又其人權蹂躪ノ事實ニ付キマシテハ、政友會ヨリモ調査隊ヲ派遣セラレテ調査ヲ爲シ、民政黨ヨリモ一松代議士竝ニ不肖ガ此任ニ當リマシテ、人權蹂躪ノ事實ヲ調査シタノデアリマス、其調査ノ結果ハ實ニ苛酷ナル拷問ヲ行ヒ、昭和ノ聖代ニ於テアルマジキ行爲ヲ敢テシタコトガ明瞭ニナッタノデアリマス（拍手）此拷問ノ事實ニ付キマシテハ、色々ノ拷問ノ方法ガアッタノデアリマス、或ハ椅子ヲ横タヘマシテ、椅子ノ上ニ正座セシメテ、サウシテ膝ノ上ヲ蹴ル、若クハ煙草責メト稱シテ、煙草ノ煙ヲ鼻ノ中カラ吹込ム、火烙リノ刑ト稱シマシテ、

前ニ火鉢ヲ置キマシテ、ソレニ猛火ヲ起シテ、其前ニ置イテ之ヲ責メル、萬歳責メト稱シテ、手ヲ舉ゲシメテ其脇ヲクスグル、此萬歳責ニハ四ツノ種類ガアルノデアリマス、斯様ナ方法ヲ行ヒ、警察署ニ何ノ權限モナクシテ留置スルコト一箇月、若クハ三箇月ノ間各警察署ニ留置致シマシテ、サウシテ警察官ガ自白ヲ強要シ、自白ヲ致シマスルヤ、之ヲ檢事局ニ送リ刑務所ニ收容致シマシタ、其收容致シマシタノガ一昨年ノ十月頃デアッタノデアリマス、一昨年ノ十月頃カラ本年ノ五月、六月マデ刑務所ニ留メ置イタノデアリマス、斯ノ如キ長イ期間刑務所ニ留メ置キ、長イ間警察署ニ留置致シマシテ、有ユル拷問ヲ行ツタ、此拷問ノ件ニ付キマシテハ、陪審法ノ委員會ニ於テ詳細ニ私ハ説明ヲ致シマシテ、サウシテ政府當局者ノ答辯ヲ得ル考デアリマスルガ、今日ハ簡單ニ其一二ヲ御紹介致シマシテ、諸君ノ御批判ヲ請ヒタイト考ヘルノデアリマス

其一ツハ私ニ參ツタ所ノ手紙デアリマス、私ハ此手紙竝ニ上申書ヲ、殆ド三日若クハ五日ニ互ツテ質問スルダケノ材料ヲ持ツテ居ルノデアリマス、其一二ヲ朗讀致シマスル機會ヲ御與ヘ下サランコトヲ御願シタイト考ヘマス、是ハ斯ウ云フ書面デゴザイマス、

「同月二十二日午前九時半ヨリ午後四時マデ四回ニ互ル大拷問ニ遭ヒ、兩手ヲ十文字ニ縛リ後口ニ廻シ、口ニ手拭ヲ振リ嚙マセ、二名ニテ口ノ割ケル程縛リ、海老責ノ刑ト稱シ、二名ニテ脊筋ノ折レル程ゴウツカレ（此間二時間位）ヘトノ下ナリ、一時休息ミ、又々二名ニテ脇ノ下ヲ拳骨デ突キ、頭ヲ毆リ、靴ニテ蹴リ、小生ヲ襁褓一枚ニ致シ、小生

ニ於テハ何事モ知ラザルコト故知ラスト申スト、右ノ如キ故、小生實ニ驚キマシタガ、小生ハ何事モ知ラザルコト故知ラスト申シマス、又打ツ蹴ル突ク、頭ハハツ頭芋ノヤウニナリ、耳ハ腫レ塞ガリ、左ノ齒ヲ二枚折ラレ、右ノ下犬齒一枚ユラノトナリ、未ダ飯ヲ嚙ムコトモ出來ズ、實ニ弱リ居リマス、第三回目、午後二時又々同類デ私ヲ調ベタノデアリマス其間ハ中略致シマスルガ、是ハ豫審免訴トナツテ歸ッタノデアリマス、小生ガ歸リテ見マス、店モ廢業サセラレ、家族七名ハ路頭ニ迷ヒ、次男モ中學ヲ退學致シ、子供ノ縁談モ破壊サレ、何トモ申シヤウモアリマセス、小生ニ於テハ未ダ半身不隨ノ有様ニテ、營業モ思フヤウニ出來ズ、立デバ足ガムクミ實ニ弱ッテ居リマス」是ハ澤山參リマシタ所ノ書面ノ一通デアリマス

斯様ナ方法ヲ以テ拷問ヲ致シマシテ、現ニ獄中ニ於テ自殺ヲ企テタ者數名アルノデアリマス、所ガ一時ハ自殺セント致シマシタガ、若シモ此儘デ自殺致シマスルト、子孫ニ汚名ヲ遺サナケレバナラナイ、ドウシテモ此無實ノ罪ヲ晴シテ死ナケレバナラスト心ヲセキ立デマシテ、自殺ヲ思ヒ止ツタト云フヤウナ人モアルノデアリマス、意思ノ弱イ人ハ其苛酷ナ拷問ニ堪ヘ得ズシテ、先程申ス如ク二名獄中ニ於テ自殺ヲ遂ゲタノデアリマス、是等ノ事實ニ依リマシテモ、如何ニ拷問ガ苛酷デアッタカト云フコトハ明瞭スルト考ヘルノデアリマス、又昨年ノ選舉ニ於キマシテモ同ジヤウナ筆法デ拷問ヲシタノデアリマス、此處ニ昨年ノ選舉ノ拷問事件ニ付キマシテ、拷問ヲ受ケマシタ所ノ一被告ガ圖ヲ以テ示シマシテ、此圖ヲ私ニ

送ッテ來タノデアリマス、此圖解ニ依リマシテモ、只今申ス通りノ拷問ノ方法ヲ圖解ニ示シテ居リマス、是ハ速記録ニ留メテ貰フ譯ニハ行キマセヌカラ、議長ヲ通ジテ此圖解ヲ政府ニ提出シタイト考ヘマス、諸君、凡ソ革命ノ歴史ヲ見マスノニ、或ハ檢舉ノ任ニ當ル所ノ人ガ人權蹂躪ヲ敢テシ、裁判ノ任ニ當ル所ノ者ガ不公平ナ裁判ヲ行ヒ、是ガ革命ノ端緒ニナツテ居ルノデアリマス、若シモ神奈川縣ニ於ケル所ノ此拷問事件ヲ、此儘ニ看過シテ置イタ場合ニ於キマシテハ、怨嗟ノ聲ハ澎湃トシテ起リマシテ、遂ニ政府ハ此怨嗟ノ聲ニ殆ド措ク所ヲ知ラナイヤウナ有様ニナリハシナイカト思フノデアリマス（神奈川縣バカリヂヤナイ）ト呼フ者アリ）内務大臣ハ此神奈川縣ノ拷問事件ノミナラズ、全國ニ互ル所ノ拷問事件ニ付テ、如何ナル對策ヲ講ゼラレントスルノデアアルカ、此點ニ付テ詳細ナル御答辯ヲ得タイト考ヘルノデアリマス（拍手）聞ク所ニ依リマスレバ、先般陪審法ノ改正法案ガ樞密院ニ諮詢セラレタ際ニ於キマシテ、樞密顧問官ヨリ全國ニ互ル所ノ拷問事實ヲ摘發セラレテ、將來注意シナケレバナラスト云フコトヲ、附帶條件トシテ決議セラレタト云フコトヲ聞イテ居リマス、是ハ果シテ附帶條件デアッタカドウカ知リマセヌケレドモ要スルニ樞密院ニ於テ人權蹂躪ノ注意ガアッタト云フコトハ、隱レモナイ事實デアルト考ヘルノデアリマス、畏クモ 天皇陛下御親臨ノ御前ニ於テ、斯ノ如キ注意ヲ受ケナガラ、内務大臣竝ニ司法大臣ノミナラズ、政府ハ恬然トシテ之ヲ顧ミナイノデアリマスルカ、將來如何ナル方針ヲ以テ人權蹂躪ヲ杜絶セラレントスルモノデアアルカ、此點ニ付キマ

シテドウカ明瞭ナル御答辯ヲ得マシテ、全國民ヲシテ安心ノ出來ルヤウニ御願ヲシタ

イノデアリマス(拍手)又豫審免訴トナリマ

シタ所ノ九十名、此九十名ニ付キマシテハ、

警察署ニ於テ拷問ノ結果虚偽ノ事實ヲ自白

シタト云フ點ニ付テ、重大ナル過失アリト

シテ、刑事補償法ニ依ル所ノ損害ノ賠償モ

出來ナイト云フヤウナ悲慘ナ狀況ニアルノ

デアリマス、二年若クハ三年ノ間罪ナクシ

テ刑務所ニ勾留セラレテ、財産上、身體上

精神上非常ナル損害ヲ受ケテ、是ガ賠償ノ

請求ガ出來ナイト云フコトニナリマシテハ、

人心ノ惡化是ヨリ甚シキモノハナイト考ヘ

ルノデアリマス(拍手)司法當局者ハ刑事補

償法ヲ改正致シマシテ、斯ノ如キ者ニ對シ

マシテハ、特ニ補償ヲスルト云フ特例ヲ設

ケラレナイノデアリマスルカ、此點ニ付テ

司法當局者ノ御説明ヲ乞ヒタイト考ヘマス

質問ハ簡單デアリマスルガ、ドウカ之ニ對

シテ政府當局者ハ明瞭ナル御答辯アラソ

トヲ要求スル者デアリマス(拍手)

(國務大臣馬場鐵一君登壇)

○國務大臣(馬場鐵一君) 警察官ノ人權蹂

躐問題ヲ聞キマスコトハ、私トシテ洵ニ遺

憾ニ存ジマス、今日ノ聖代ニ於キマシテ、

苟モ拷問ノ如キ事實ガアリマスルコトハ、

洵ニ殘念千萬デアリマス、私ハ之ニ對シテ

ハ能ク事實ヲ調べマシテ、決シテ何等曲庇

スルコトナク、嚴正適切ナル處置ヲ執リタ

イト考ヘテ居リマス、併ナガラ是ハ單ニ處

罰ヲ嚴正ニスルトカ云フコトダケデハ、此

問題ノ根ヲ絶ヤスコトハ到底出來ナイト思

ヒマス、ヤハリ將來警察官ノ修養、訓練、

指導、監督ニ付テ、更ニ一層私共ガ十分ニ

力ヲ入レナケレバナラヌト思ヒマス、此點

ニ付テ内務當局トシテハ目下篤ト研究ヲ致

シテ居リマス、左様御諒察ヲ願ヒマス

(政府委員久山知之君登壇)

○政府委員(久山知之君) 私ハ會テ此壇上

ニ於キマシテ人權蹂躐ノ非ヲ糾彈致シタ

記憶ヲ持ッテ居リマス、本日ハ立場ヲ變ヘマ

シテ、同じ此壇上ニ立ッテ平川君ニ御答申

上ゲルコトハ、洵ニ思出ノ深イモノガアル

ノデアリマス、只今御述ニナリマシタ神奈

川縣ニ於キマスル集團放火事件ニ對シマシ

テハ、司法當局ト致シマシテモ、洵ニ遺憾

ナ出來事ト致シマシテ、十二分ノ注意ヲ拂ッ

テ居リマス、尙ホ全國各地ニ起リマスル人

權蹂躐ノ聲ニ對シマシテモ、決シテ之ヲ閑

却致シテ居ル者デハナイノデアリマス、集

團放火事件ノ被疑者ガ、多數豫審免訴ニナ

リマシタコトニ付キマシテハ、其原因竝ニ

事情等ニ對シマシテ、目下大審院檢事局

ノ審査部ニ於キマシテ熱心ニ調査ヲ致シテ

居リマス、其審査ノ結果ヲ俟チマシテ、適

當ナル處置ヲ講ズルコトガ至當デアラウ

ト、斯様ニ私ハ考ヘテ居リマス

尙ホ放火事件ノ被疑者ノ中ニ、若シ本人

ノ自白ガ拷問ノ結果餘儀ナク致サレマシタ

モノガアリマシタ場合ニハ、當該檢事局ノ

審査部ノ檢事ニ於キマシテ、其事實ガハッキ

リ現ハレマシタ時ハ、現行刑事補償法ノ下

ニ於キマシテモ、賠償ニ與ルコトガ出來ル

コトニ相成ッテ居ルノデアリマス

ソレカラ尙ホ將來ノ人權蹂躐ノ根絶ノ對

策ト致シマシテハ、昨年來司法部ト致シマシ

テハ、關係方面ニ屢、嚴重ナル戒告ヲ發シ

マシテ、自肅自戒ヲ促シテ居リマス

又司法警察官吏ノ教養訓練ニ對シマシテ

モ、從來ヨリ一層ノ努力ヲ拂ッテ居ル譯デ

アリマシテ、近來相當其成績ノ見ルベキモ

ノアルコトヲ喜ンデ居ル次第デアリマス、

併シ……

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員(久山知之君)(續) 併ナガラ地

方ニ於キマシテ犯罪ノ起キマスル原因、手段、

犯罪捜査ノ方法等ニ付キマシテハ、之ヲ從

前ノ取調ノ手段ニ委セテ置クダケデハ、到

底此人權蹂躐ノ根絶ヲ期スルコトハ出來ナ

イト思ヒマスノデ

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員(久山知之君)(續) 將來ハ科學

的ノ捜査ノ方法ニ依リマシテ、今マデノ缺

陥ヲ補ッテ行ク、斯ウ云フコトヲ考ヘマシ

テ、來ルベキ議會ニ是等ニ對スル豫算ヲ提

出致シタイト、目下努力ヲ致シテ居ル譯デ

アリマス、私ハ重ネテ申上ゲマスルガ、人

權蹂躐ノ事實ノアリマシタコトニ對シテ、

吾々決シテ之ヲ否認スルモノデアリマセス

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○政府委員(久山知之君)(續) 私司法省ニ

職ヲ奉ジマスル以上ハ、洵ニ微力デアリマ

スルガ私ノ全努力ヲ傾注致シテ、將來重ネ

テ皆様方カラ斯ノ如キ問題ニ對シテ御非難

或ハ御指摘ヲ戴クコトノナイヤウニ、十分

ナル努力ヲ拂ヒタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次

第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 河野一郎君

(河野一郎君登壇)

○河野一郎君 私ハ只今提案ニナッテ居リ

マスル司法省關係ノ議案審議ニ當リマシ

テ、現内閣ガ現下ノ我が國家ノ情勢ニ鑑ミ

マシテ、特ニ國論ヲ統一シ、舉國一致ヲ以

テ國難打開ニ當ラナケレバナリマセヌ時ニ

當ッテ、最モ吾々トシテ憂慮ニ堪ヘマセヌ一

二ノ具體的ノ實例ヲ擧ゲマシテ、司法當局

ハ現在司法ノ威信ガ國民ノ間ニドノ程度ニ

傷付ケラレテ居ルカ、又今議會ヲ通ジテ司法

事務刷新、司法威信ノ確保ト云フ見地カラ

提案セラレテ居リマスル是等ノ法案ガ、假

令本院ヲ通過致シ、法律ト相成リマシタ所

デ、其程度ノモノデ果シテ司法ノ威信ガ回

復スルコトガ出來ルヤ否ヤト云フコトニ、

深ク疑問ヲ懷キマスルガ故ニ、此機會ニ於

テ、時間ノアリマセヌコトヲ甚ダ遺憾ト致

シマスルガ、極ク簡潔ニ實例ヲ申上ゲテ、

司法當局ノ明快ナル御答辯ヲ要求致シマス

ルト共ニ、特ニ御出席ノ軍當局其他内閣諸

公ノ是等ノ點ニ付テ十分ニ御反省ヲ願ヒタ

イト思フノデアリマス

先ヅ第一ニ申上ゲタイノハ、只今先輩平

川氏ヨリ此壇上ニ於テ述ベラレマシタル神

奈川縣下ノ放火團事件、此事件ニ關聯致シ

マシテ、其被疑者、被告等ガ現在如何ナル

心境ニアルカト云フコトヲ、率直ニ申上ゲ

テ見タイト思フノデアリマス、吾々ハ先日

政友會本部ヨリ特派セラレマシタ同事件ノ

調査班ノ方々ト共ニ、此放火團ニ關係ノア

リマス被告百數十名ヲ松田町ニ集メマシテ、

一々ノ被告ニ就イテ取調ベノ狀況ヲ伺ッタ

ノデアリマス、所ガ驚クベキコトニハ、

其中ノ多數ノ者ガ人權蹂躐ノ事實ヲ吾々

ニ話ス前ニ、此席ニ於テ申上ゲルコトハ

甚ダドウカト考ヘマスケレドモ、吾々ノ

心境トシテハ政治ガ有難クナイ、國家

ガ有難クナイ、一生懸命ニ働イテ、税金

ヲ納メテ、忠良ナル臣民トシテ今日マデ努

メテ來タモノガ、何ガ何ダカ譯ガ分ラズニ警察ニ連レテ行カレ、毆ラレ、一年モ二年モ監獄ニ入レラレテ、サウシテ出テ來ルヤウナ世ノ中ガ何處ガ一體有難イノダ、今更皆様ガ人權蹂躪ノ調査ニオ出ニナッテモ有難クアリマセス、吾々ハ名譽ヲ蹂躪ラレ、家庭ヲ蹂躪ラレ、既ニ郷ニ歸ッテモ人カラハ放火團ト指ヲ指サレ、是程慘虐ナ目ニ遭ッテ、世ノ中ガ一體何ガ有難イカ、極端ニ申セバ、當日彼等ガ申シマシタ言葉ヲ其儘ニ申シマスナラバ、日本ノ國ガ有難クナイト申スノデアリマス、此心境ニアリマスル所ノ臣民、此心境ニアリマス所ノ國民ガ、九千万ノ國民ノ中ニアルト云フコトヲ政府ハ御認識願ヒタイ、而モ其國民ガ政府爲政者ノ暴政ノ爲ニ彼等ガ其心境ニナッテ居ル、生レナガラニシテ決シテ國家ヲ呪ッテ居ルモノデモナイ、政治ヲ呪ウテ居ルモノデモナイ、政府當局ノ暴政ノ結果ガ、斯ノ如クニシテ忠良ナル臣民ヲシテ、日ノ丸ノ旗ハ立テマセストマデ言明サセルニ至ッテハ、其責任ハ果シテ何人ガ負フベキデアリマセウカ(拍手)私ハ内務大臣ガ只今此席ニ於テ答辯セラレマシタコトニ甚ダ不滿ヲ持チマス、何故ナレバ此演壇ニ述ベラレタコトト、内務大臣ガ今日マデヤラレマシタコトト、果シテ言行一致シテ居リマセウカ、平川先輩ガ述ベラレマシタ通り、神奈川縣下ニ於キマスル所ノ、拷問事件ノ元祖トモ申スベキ所ノ、最モ惡質ナ官吏ハ相川現宮崎縣知事デアリマス、此相川現宮崎縣知事ガ、神奈川縣下ニ於ケル斯ノ如キ暴虐ナル拷問事件ノ元祖デアリマス、其相川君ガ一度内務本省カラ朝鮮ニ左遷セラレテ居ッタモノヲ、何ノ必要ガアッテ宮崎縣ニ榮轉サセタノデアリ

マスカ(拍手)認識ガ足ラナカッタト云フナラバ、直チニ御考ニナッテ然ルベシト私ハ考ヘル、其他神奈川縣下ニ於テ、吾々ガ數年來屢、本院ヲ通ジテ人權蹂躪ノ事實ヲ申上ゲマシテモ、何レモ處罰ヲ受ケタル者ハ警部、警部補、巡查ノ類デアリマス、未ダ課長、部長、知事ニ至ッテハ一人モ處分ヲ受ケタル者ハ無イノデアリマス、凡ソ眞ニ政府ガ人權蹂躪ヲ根絶ササウトスルナラバ、何故ニ其責任ノ衡ニ在ル所ノ知事ヲ處分セナイノデアリマスカ(拍手)警察部長ヲ何故處分シナイノデアリマスカ(拍手)課長ヲ何故處分シナイノデアリマスカ、(剩ヘ先程平川氏ニ依ッテ指摘セラレマシタ加藤前刑事課長ノ如キハ、神奈川縣下ニ於テ縣廳ノ幹旋ニ依ッテ東京電氣株式會社ニ相當ノ高給ヲ食シデ居ルデアリマセヌカ、人權蹂躪ヲヤッタ警察官ガ辭表ヲ出ス、マア辭表ヲ出シテ置ケバ何處カニ世話ヲシテヤルカラト云フコトデ、惡イ事ヲシタ者ガ救ハレルト云フコトデハ、ドウシテ一體人權蹂躪ノ事實ガ根絶スルト御考ニナルカ、私ハ此處ニ多數ノ被告ノ上申書ヲ持參致シテ居リマス、是等ハ何レモ涙ナクシテハ朗讀ノ出來ナイ各人ノ書イタ上申書デアリマス、是ハ時間ガ許シマセスノデ一々朗讀スルコトヲ省キマシテ、此中ノ最モ皆様ニ御一讀ヲ願ヒタイ、又全國民ニ御一讀ヲ願ヒタイ部分ヲ、議長ノ御許シヲ得テ速記録ニ載セタイト考ヘマス(贊成ト呼フ者アリ)議長ノ御許可ヲ願ヒマス

尙ホ此機會ニ時間ヲ省略スル意味ニ於キマシテ、本上申書ノ中ニ書キ記サレテ居リマスル所ノ拷問ノ事實ヲ簡單ニ申上ゲテ見マス、大體拷問ノ種類ト致シマシテハ萬歲責、鞭責、椅子責、煙草責、火責、竹刀責、朝鮮責、腹揉責、首締、手足ヲ延バシテ反對ニ捻ル、是ハ名前ガ分リマセス、其他鉛筆責デアリマスルトカ、火烙リ責デアリマスルトカ色々アリマス、其中デ特ニ此上申書ノ中ニ書キ記シテアリマスル所ノモノデ、繪ニ描ケルモノヲ此處ニ持ッテ參リマシタカラ、御參考マデニ御一覽ヲ願ヒタイト思ヒマス(圖ヲ示ス)是ガ先程平川氏ニ依ッテ示サレマシタ椅子ノ上ニ坐ラセテ、煙草デ以テ煙スヤツデアリマス(内務大臣ニ見セナケリヤ駄目ダ)ト呼フ者アリ(圖ヲ示ス)是ガ火責ノ中ノ一例デアリマス、大體兩方カラ警察官ガ腕ト足ヲ押ヘテ、全部猿轡ヲ嵌メマス、サウシテ手ニ紙片ヲ持タセテ、ソレニ火ヲ點ケテ責メルノデアリマス(圖ヲ示ス)是ガ被告ノ申シマスルニハ、一番辛イト申スヤツデアリマス、後ロニソラシテ、サウシテ此腹ヲゴリ／＼揉ミ上ゲルサウデアリマス、是ガ刑務所カラ一年半ニシテ出テ參ッテモ、尙ホ腹ノ工合ガ惡イト云フヤツデアリマス、(笑聲圖ヲ示ス)是ハ椅子責ノ一種デ中腰ニシテ椅子ヲ持タセテ、是デ二時間デモ三時間デモ立タセテ置クサウデアリマス、マダ澤山アリマスガ、時間ガアリマセヌカラ……(ヤレ／＼)ト呼フ者アリ)是ハ此儘政府ニ提出シテ、私ノ此機會ニ質問致シテ置キタイコトハ、此處ニアリマスル上申書ヲ議長ノ許可ヲ得テ速記録ニ留メテ、私ハ各被告カラ斯ノ如クニ心情ヲ懇ヘラレテ、政府ニ御質シ、テ吳レト云フコトヲ申込マレテ居ルモノデアリマス、私ハ此事實ノ有無ヲ知リマセス、知リマセヌガ、本人ノ血書デアリマス、血ト淚ヲ以テ綴ッタ書類デアリマス、之ヲ速記録ニ留

メテ、全國ニ速記録ヲ以テ發表致スモノデアリマス、政府ハ此事實ニ付テ速ニ調査セラレ、此内容ノ眞偽ヲ天下ニ發表スベキデアルト考ヘルノデアリマス、若シモ此事實ニシテ眞ナラバ、一日モ速ニ斯ノ如キ官吏ハ斷乎トシテ處分スベキデアルト思フノデアリマス(拍手)而シテ此機會ニ特ニ申上ゲテ置キタイコトハ、前七十議會ニ於キマシテ、私ハ百二十餘通ノ上申書ヲ當時ノ鹽野司法大臣、又ハ河原田内務大臣ニ提出致シマシテ、其實情ヲ調べ、機宜ノ處置ヲ執レト云フコトヲ政府ニ迫ッタモノデアリマス、然ルニ政府ハ當時議會ニ於テハ何カト巧イコトヲ申シテ居リマシタケレドモ、今日マデ既ニ半歲ヲ經過致シマスルケレドモ、何等政府ガ活動シタ跡ヲ吾々ハ聞カナイノデアリマス、議會ニ唯吾々ガ提出スレバ、此書類ヲ其儘握潰シテ一時ヲ糊塗セントスル、政府ガ如何ニ此壇上ニ於キマシテ巧イコトヲ言ウテモ、是ハ吾々ハ信ヲ置クコトガ出來ナイ、本日私ハ此書類ヲ政府ニ預ケマスルガ故ニ、政府ハ此内容ニ付テ速ニ調査ヲ致シ、而シテ其非違アル官吏ニ對シテハ、斷乎タル處分ヲスル決心アリヤ否ヤト云フコトヲ、此壇上ヨリ、明確ニ御答辯アラント御願致シマシテ、私ノ質問ヲ終リマス

(國務大臣馬場鐵一君登壇)

○國務大臣(馬場鐵一君) 篤ト事實ヲ調査致シマシテ、嚴正適切ナル處分ヲ致シマス

(政府委員久山知之君登壇)

○政府委員(久山知之君) 只今河野君カラ人權蹂躪ノ事實ニ對シマシテ、縷々御述ニナリマシタ點ハ、具ニ拜聽致シテ居リマ

ス、サウ云フ事實ガアリトシマスレバ、相
手ガ何デアラウトモ、司法省ニ限ッテ斷ジ
テ之ヲ默過スルコトハ致シマセヌ、ドウカ
具體的ノ事實ニ對シマシテハ、御遠慮ナク
其實ヲ御申告ヲ煩ハシタイト思フノデア
リマス

○議長(小山松壽君) 是ニテ質疑ハ終局致
シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ
選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第四乃至第六ノ三案
ハ、一括シテ政府提出、陪審法中改正法律
案ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミ
マス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
七、昭和十年度第一豫備金支出ノ件外十
件、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマス——
大藏參與官

昭和十年度第一豫備金
支出ノ件
昭和十年度特別會計第
一豫備金支出ノ件
昭和十年度特別會計豫
備金支出ノ件
昭和十年度滿洲事件第
一豫備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭和
至同 年三月昭和
十年度第二豫備金支出
ノ件

第七

自昭和十一年一月昭和
至同 年三月昭和
十年度豫備金外ニ於テ
豫算超過及豫算外支出
ノ件
自昭和十一年一月昭和
至同 年三月昭和
十年度特別會計第二豫
備金支出ノ件
自昭和十一年一月昭和
至同 年三月昭和
十年度特別會計豫備金
外ニ於テ豫算超過及豫
算外支出ノ件
昭和十一年度第一豫備
金支出ノ件
昭和十一年度特別會計
第二豫備金支出ノ件
昭和十一年度特別會計
豫備金外ニ於テ豫算外
支出ノ件

承諾ヲ
求ムル
件

(政府委員中村三之丞君登壇)

○政府委員(中村三之丞君) 只今議題トナ
リマシタ昭和十年度第一豫備金支出外十件
ニ關スル事後承諾ヲ求ムル件ニ付キ、其大
體ノ説明ヲ致サウト存ジマス

昭和十年度第一豫備金ノ豫算額ハ六百萬
圓デアリマスガ、昭和十年勅令第二百六十
八號ニ依リ、第一豫備金ヨリ補充致シマシ
タル主ナル事項ハ、檢丁及新兵旅費、軍事
救護費、内國稅拂辰金、海軍主食品購買費、
刑務所收容費等デアリマシテ、其總額ハ六
百萬圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシ
テモ、其第一豫備金又ハ豫備費ヨリ豫算超
過ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス
次ニ昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出
ニ付申上ゲマス、昭和十年度滿洲事件第

一豫備金ノ豫算額ハ五百萬圓デアリマスガ、
昭和十年勅令第二百六十八號ニ依リ、滿洲
事件費ニ補充致シマシタル金額ハ五百萬圓
デアリマス、次ニ昭和十一年一月ヨリ三月
ニ至ル間ニ於ケル昭和十年度第二豫備金支
出ニ付申上ゲマス、昭和十年度第二豫備金
ノ豫算額及ビ其支出總額ハ二千三百萬圓デ
アリマシテ、内昭和十年十二月以前ノ支出
ニ係ル千九百九十二萬八千五百六十六圓ハ、既ニ第
六十九回帝國議會ニ於テ御承諾ヲ得テ居リ
マスガ、其後昭和十一年一月及ビ同二月
ニ支出致シマシタル金額ハ三百九十七萬九千
百四十四圓デアリマス、其内主ナル事項ヲ
舉ゲマスレバ、衆議院議員總選舉諸費補足、
衆議院議員總選舉檢察費補足、災害地方尋
常小學校費臨時補助、東北地方其他各地冷
害應急施設費等デアリマス、各特別會計ニ
於キマシテモ、其第二豫備金ヲ以テ豫算外
ノ支出ヲナシタルモノガアリマス

次ニ昭和十年度豫備金外支出ニ付申上ゲ
マス、昭和十一年一月衆議院解散ノ結果、
緊急支出ヲ要スル費途ニ對シ、政府ハ已ム
ヲ得ズ昭和十一年二月一日ヨリ三月三十日
ニ至ル間ニ於テ、國庫剩餘金及公債金ノ繰
入ヲ以テ、豫算超過及豫算外ノ支出ヲナシ
タルモノガアリマス、其内主ナル事項ヲ舉
ゲマスレバ、國庫剩餘金支出ニ依リマシタ
モノハ、内國稅拂辰金、恩給、臨時警備諸
費等デアリマシテ、公債金ノ繰入ニ依リマ
シタルモノハ、北海道及青森外八縣應急土木
事業助成費、關東及關西地方其他各地風水
害復舊施設費、東北地方其他各地冷害應急
施設費等デアリマシテ、其總額ハ千四百七
萬五千七百五圓デアリマス、各特別會計ニ
於キマシテモ、其國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過

及豫算外ノ支出ヲナシタルモノガアリマス
次ニ昭和十一年度第二豫備金支出ニ付申
上ゲマス
昭和十一年度第二豫備金ノ豫算額ハ二千
三百萬圓デアリマシテ、昭和十一年四月ヨ
リ同年十二月ニ至ル間ニ於ケル支出總額ハ
九百三十九萬五千五百九十九圓デアリマス、
其内主ナル事項ヲ舉ゲマスレバ、電信料補
足、臨時警備諸費、水陸警備費補足、航空
隊設備費補足、艦船其他損傷復舊費等デア
リマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第
二豫備金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲナシタルモ
ノト、豫備金外ニ於テ其國庫剩餘金ヲ以テ、
豫算外ノ支出ヲナシタルモノトガアリマス、
何卒御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレンコトヲ望
ミマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本件ノ審査ヲ付託ス
ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第七ハ議長指名十八名
ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
八及ビ第九ハ同種議案デアリマスカラ、一
括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第八、陪審法中改正法律案、
日程第九、陪審法中改正法律案、右兩案ヲ
一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者
ノ趣旨辯明ヲ許シマス——立川平君

第八 陪審法中改正法律案(牧野賤男 君外八名提出) 第一讀會

第九 陪審法中改正法律案(野田文一郎君外二名提出) 第一讀會

陪審法中改正法律案

陪審法中左ノ通改正ス

第二條 死刑又ハ無期若ハ長期三年ヲ超

ユル有期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條 削除

第四條中「前二條」ヲ「第二條」ニ改ム

第五條 削除

第六條中「辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得」ヲ「辭スルコトヲ得」ニ改ム

第十條第一項中「陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得」ヲ「陪審ノ評議ニ付スルヲ辭スルコトヲ得」ニ改メ同條第二項及第三項中「又ハ請求ヲ取下ケ」ヲ削除

第十一條 削除

第三十九條 削除

第九十五條 削除

第九十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

陪審ノ答申アリタルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

第一百一條 被告人ハ上訴ヲ爲スコトヲ得上訴ヲ爲スコトヲ得ル者ニ付テハ刑事訴訟法第三百七十八條、第三百七十九條及第三百八十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百二條 陪審ノ答申ニ影響アル控訴ノ申立アリタルトキハ前二節ノ規定ニ從ヒ更ニ之ヲ審理スヘシ

陪審ノ答申ニ影響ナキ控訴ノ申立アリタルトキハ第一審ニ於ケル陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス

第三百三條中「理由アル場合ニ於テ」ノ下ニ「檢事及被告人」ヲ加フ

第七條 削除

陪審法中改正法律案

陪審法中左ノ通改正ス

第二條 死刑又ハ無期若ハ長期三年ヲ超

ユル有期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條 削除

第四條中「前二條」ヲ「第二條」ニ改ム

第五條 削除

第六條中「辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得」ヲ「辭スルコトヲ得」ニ改ム

第十條第一項中「陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得」ヲ「陪審ノ評議ニ付スルヲ辭スルコトヲ得」ニ改メ同條第二項及第三項中「又ハ請求ヲ取下ケ」ヲ削除

第十一條 削除

第三十九條 削除

第九十五條 削除

第九十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

陪審ノ答申アリタルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

第一百一條 被告人ハ上訴ヲ爲スコトヲ得上訴ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ付テハ刑事訴訟法第三百七十八條、第三百七十九條及第三百八十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百二條 陪審ノ答申ニ影響アル控訴ノ申立アリタルトキハ前二節ノ規定ニ從ヒ更ニ之ヲ審理スヘシ

申立アリタルトキハ前二節ノ規定ニ從ヒ更ニ之ヲ審理スヘシ

陪審ノ答申ニ影響ナキ控訴ノ申立アリタルトキハ第一審ニ於ケル陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス

第三百三條中「理由アル場合ニ於テ」ノ下ニ「檢事及被告人」ヲ加フ

第七條 削除

○立川平君 只今上程セラレマシタ陪審法中改正法律案ニ付キマシテ、其提案ノ趣旨ヲ簡單ニ申上ゲタイト存ジマス、改正ノ要點ハ三ツデアリマス、第一ハ其範圍ノ擴張デアリマス、現行法ノ下ニ於キマシテハ、陪審ノ評議ニ付スル事件ノ範圍ガ極メテ狹小デアリマシテ、陪審制度ノ實績ヲ擧ゲルコトガ出來マセヌ、ソコデ之ヲ擴張致シマシテ、地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ、原則トシテ總テ之ヲ陪審ノ評議ニ付スルトニ致スノデアリマス

第二點ハ三審制度ノ採用デアリマス、現行刑事訴訟法ハ三審制ヲ採用シテ居リマスニモ拘ラズ、陪審法ハ二審制度ヲ採用シテ居リマス、是ハ何等理由ナイコトデアリマス、ソノミナラズ、陪審法ガ實際ニ用ヒラレテ居ラナイ重大ナル原因ノ一ツニナツテ居リマス、故ニ之ヲ刑事訴訟法ト同様ニ三審制ニ致サウト云フノデアリマス、而シテ裁判所ガ陪審ノ答申ヲ無視シテ、更ニ他ノ陪審ニ付スルト云フヤウナコトハ、全ク官僚獨善ノ思想カラ出發シタモノデアリマシテ、陪審ノ精神ニ悖ルコト甚シイデアリマス、故ニ第九十五條ノ如キハ斷然之ヲ削除スルノデアリマシテ、陪審法ヲ三審制度ニ改メ

マスル時ニハ、上訴ノ申立人ノ範圍モ亦刑事訴訟法ト同様ノ點マデ擴張シナケレバナリマセヌ、更ニ陪審ノ控訴ニ於キマシテモ、第一審ノ審理ト同様ナル審理ヲシナケレバナラナイノデアリマス、唯第一審ニ於ケル陪審ノ評議ニ影響ノナイ控訴ノ申立ガアツタ場合ニ限ツテ、第一審ニ於ケル陪審ノ答申ヲシテ、其效力ヲ存續セシムルヤウニ致スノデアリマス

第三ノ點ハ費用ノ點デアリマス、現行陪審法ニ於キマシテ、其費用ノ全部或ハ一部ヲ當事者ガ負擔ヲ致シテ居リマスカラ、國民ト致シマシテハ、ドウシテモ此陪審法ニ賴ルコトヲ躊躇セザルヲ得ナイコトガ多イノデアリマス、故ニ之ヲ全部國庫ノ負擔トシヨウト云フノデアリマス、現在ノ陪審法ガ實際ニ多ク用ヒラレテ居ラナイト云フノハ斯ノ如クニ現行陪審法ニ幾多重大ナル缺陷ガアルカラデアリマシテ、斷ジテ國民ノ陪審法其モノニ對スル不信用カラデアアルノデハナイノデアリマス、然ルニ政府ハ今回陪審法ヲ寧ロ改惡セントスルヤウナ意思サヘ持ツテ居ルト云フコトハ、實ニ驚クニ堪ヘタルコトト云ハナケレバナリマセヌ、吾々ハ是ニ於テ陪審法ヲ斯ノ如クニ改正致シマシテ、本法制定ノ趣旨ヲ貫徹セントスル次第デアリマス、願クハ滿場ノ御贊成ヲ願ヒマス(拍手)

○岡本實太郎君 簡單デアリマスカラ自席カラ發言ヲ御許シ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス

○岡本實太郎君 本案ヲ提出致シマシタ趣旨ハ、只今同僚立川君カラ申述ベラレタ通りデアリマスカラ、之ヲ私ハ援用致シテ置キ

マス、其理由ニ付キマシテ聊カ附加致シテ置キタイト思ヒマスガ、本來陪審法ヲ設ケラレマシタノハ、國民ガ國政ニ參與スル一ツト致シマシテ、司法ニ參與ヲ許サレタノデアリマス、斯クシテ適正ナ裁判ヲ得テ司法ノ尊嚴ヲ保チ、國民ノ信賴ヲ得シガ爲ニ、此制度ガ設ケラレタノデアリマス、然ルニ此法ガ實施サレテ以來ノ實際ヲ見マスルト云フト、是ガ適用ニ付甚ダ不十分デアリマス、制定サレタ時ノ積リヨリモ、實施後ニ其結果ガ振ハナイト云フヤウナ現在ノ狀態デアリマス、何故斯様ナ狀態ニナツタカト言ヘバ、畢竟此法律其モノニ缺陷ガアル、即チ只今立川君カラ申述ベラレマシタヤウニ、或ハ有罪ニナレバ費用ヲ負擔シナケレバナラストカ、或ハ又控訴ヲ許サナイト云フコト等ガアリマス爲ニ、遂ニ此適用ガ甚ダ減縮サレシマヒマシタ、斯ウ云フコトカト思フノデアリマス、故ニ此缺陷ヲ除ク爲ニ本法ヲ改正シヨウ、而シテ法廷陪審ノ制度ヲ一層擴張シテ法ノ運用ヲ滑カナラシメ、此法制定ノ精神ヲ發揚シタイト云フノガ本法案ヲ提出シタ理由デアリマス、何卒此趣旨ヲ御諒解ノ上御賛成ノ程ヲ御願致シマス

○服部崎市君 日程第八及第九ノ兩案ハ一括シテ政府提出、陪審法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十

十、大正十二年法律第五十二號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者森下國雄君

第十 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(森下國雄君提出) 第一讀會

大正十二年法律第五十二號中改正法律案
第一項中「辯護士法第三條」ヲ「辯護士法第二條第一項第二號」ニ、「辯護士試験タルコトヲ得」ヲ「辯護士タルコトヲ得」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リテ辯護士試験タル資格ヲ有スル者ハ本法ニ依ル辯護士タル資格ヲ有ス
〔森下國雄君登壇〕

○森下國雄君 本案提出ノ理由ヲ申述ベマス、昭和八年五月法律第五十三號改正辯護士法ハ、同十一年四月一日ヨリ實施セラレタ結果、其影響ヲ受ケマシテ、本法モ同十一年五月法律第七號ニ依リ改正セラレ、本法ニ依ル試験合格後何等ノ生活ノ保障ナクシテ更ニ一年半ノ實務修習ヲ爲シ、成規ノ考試ヲ得ナケレバ辯護士トナレヌコトニナツタノデアリマス、此辯護士法制度ハ少クトモ本法ニ依ル合格者ニ對シテハ非常ナ不公平ナル、不合理ナル制度ト存ズルノデアリマス、試験ハ辯護士法第二十八條ニ依リ他ノ職務ニ在ルコトヲ許サレナイノデアリマス、隨テ試験ニ合格後デモ、辯護士タラントスルニハ現在ノ職ヲ辭シテ、即チ失業狀

態トナリマシテ實務修習ヲ致サナケレバナリマセヌ、裕福ノ者又ハ學校ヲ出タテノ者ニシテ、親ノ世話ニナリ得ル者デアリマスルナラバ、此修習ヲ受ケ得ラレルノデアリマスガ、本法ノ合格者ハ總テ四十歳以上又ハ六十歳ニ及ンデ居ルデアリマス、而シテ各職業ヲ持ッテ其家族ヲ養フテ居ルノデアリマシテ、隨テ其職ヲ奪フニ於テハ、直チニ辯護士トシテ開業ガ出來ルヤウニシテヤラナケレバナラナイト存ズルノデアリマス、更ニ毎年司法試験合格者約三百名ノ中、司法官試験補トナル者ガ百二十三名、ソレカラ行政科ニ合格シテ行政官其他トナルベキ者ヲ除ク約百餘名ト、本法ノ合格者約二十名、即チ百三四十名ガ辯護士トナツテ居リマシタノデアリマスガ、此度ノ辯護士試験ハ生活ノ保障ノ一大難關ノ爲メ、試験トシテ實務修習ヲ受ケ得ザル者ガ、其半數以上ニ達シテ居ルト云フコトデアリマス、地方ニアリマシテハ實務修習ヲ開始シテ居ナイ處モ大分アリマス、而モ其人々ハ怨ヲ吞ンデ此不合理ナル所ノ制度ノ撤廢ヲ待ッテ居ルト云フコトデアリマス、折角學校ヲ出マシテ多年ノ宿望ヲ果シタニモ拘ラズ、此制度ノ爲ニ辯護士トナルコトガ出來ナイト云フ結果ニナル、洵ニ氣ノ毒ノ狀態ト存ズルノデアリマス、現在實務修習ヲ致シテ居リマスル者ハ東京、大阪、名古屋位ノモノデアリマシテ、東京ガ約五十名、大阪ガ約十五名、名古屋ガ三名、其他ハヤッテ居ラスト云フコトデアリマス、斯ウ云フヤウナ不合理ナルヤリ方デ、此法ヲ不備ナル形ニ其儘迷ハセテ居ルト云フコトガ、洵ニ怪シカラヌ

コトデハナイカト私共ハ存ズルノデアリマス、ドウゾ斯ウシタ洵ニ御氣ノ毒ナ狀態ニアル所ノ制度ヲ改メマシテ、是等ノ四十歳カラ六十歳ニ及ンデ居リマス所ノ、今日マデ刻苦勉勵ヲ續ケテ來マシテ尙ホ苦ンデ居ル人々ノ爲ニ、是非共御賛成ヲ戴キマシテ、前回ノ議會ニ於キマシテ全員一致決可決ヲシタモノデアリマスカラ、何卒之ニ御賛成ヲ仰ガントスル者デアリマス(拍手)

○服部崎市君 本案ハ政府提出、陪審法中改正法律案ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十一、恩給法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者宮脇長吉君

第十一 恩給法中改正法律案(宮脇長吉君外一名提出) 第一讀會
恩給法中改正法律案
第二條第一項中「傷病賜金」及同條第二項中「傷病賜金」ヲ削ル
第四十六條ニ左ノ二項ヲ加フ
軍人公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナク且恩給ヲ受ケスシテ退職シタル後其ノ程度増進シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス但シ重大ナル過失アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

官報號外 昭和十二年八月一日 衆議院議事速記第七號 大正十二年法律第五十二號中改正法律案 第一讀會 恩給法中改正法律案 第一讀會 一一五

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十六條ノ二第一項中「公務員公務ノ爲」ヲ「公務員(下士官以下ノ軍人ヲ除ク)公務ノ爲」ニ、「又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後一年内ニ」ヲ又

ハ下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ別ニ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲退職シ又ハ退職後ニ改ム
第六十六條 削除
別表第二號表ヲ左ノ如ク改ム

第二號表

備考	號	乙	號	甲	傷病原因 階 等 差					
					特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以內ヲ加ヘタルモノトス	特別項	一、九二〇円	特別項	二、四〇〇円	親任	親任	親任	親任	親任	親任
	第一項	一、四四〇円	第一項	一、八〇〇円	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
	第二項	一、二八〇円	第二項	一、五〇〇円	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
	第三項	九六〇円	第三項	一、二〇〇円	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
	第四項	七六八円	第四項	九六〇円	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
	第五項	六四〇円	第五項	八〇〇円	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任

別表第三號表ヲ左ノ如ク改ム
第三號表

號	乙	號	甲	傷病原因 階 等 差					
				特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
第六款	二二〇	第六款	二五〇	親任	親任	親任	親任	親任	親任
第五款	二四〇	第五款	二七〇	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
第四款	二六〇	第四款	二九〇	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
第三款	二八〇	第三款	三一〇	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
第二款	三〇〇	第二款	三三〇	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
第一款	三二〇	第一款	三五〇	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任	奏任

別表第四號表ヲ削ル
附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍人ニシテ從前ノ規定ニ依ル賑恤金、傷病賜金、傷病年金又ハ之ニ準スヘキモノヲ受ケタル者ニ對シテハ再診ヲ要セスシテ本法施行ノ翌日ヨリ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給及增加恩給ノ年額ニ付テハ第四十六條ノ規定ニ依ル普通恩給增加恩給ノ年額ニ關スル規定ヲ準用ス

(官廳長吉君登壇)

○宮脇長吉君 只今上程ニナリマシタ恩給法中改正法律案ニ關シマシテ、改正ノ要點ハ「軍人公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナク且恩給ヲ受ケスシテ退職シタル後其ノ程度増進シタルトキハ新ニ普通

恩給及增加恩給ヲ給ス」ト云フノガ其要點デアリマス、極メテ簡單ニ要ヲ摘ンデ其理由ヲ述ベテ見タイト思ヒマス

本法案ノ適用スベキ者ハ其大部分ハ戰場ノ負傷兵デアリマス、御承知ノヤウニ戰場ニ於テ負傷ヲ致シ、其程度ガ一指以上ノ用ヲ失フ場合ニ於キマシテハ、終生普通恩給竝ニ增加恩給ヲ給シマス、然ルニ戰場ニ於キマシテハ多數ノ負傷者ガアリ、所謂兵馬倥傯ノ間ニアル爲ニ、診斷ニ於テモ動モスレバ過ガアリ、或ハ將來ノ見込違モアリ、此様ノ關係カラ其後負傷シタ者ガ、程度ガ輕イト判斷サレタ者ガ、却テ非常ニ重クナリ、恩給竝ニ增加恩給ヲ受ケテ居ル者ヨリモ、一層困難ナ者ガ澤山アリマス、之ニ對シ更ニ診斷ヲ行ヒ、茲ニ十分ナル檢討ヲ爲シテ、正シク戰場負傷ノ原因デアリ、此者ハ一指

以上ノ用ヲ失ツテ居ルト云フコトガ決ツタ場
合ニ於キマシテハ、之ニ對シ週及ハシナク
トモ、此法案ガ通過シタ翌日カラ、茲ニ普
通恩給竝ニ増加恩給ヲ給セヨト云フノガ其
理由デアリマス、私ハ之ニ對シ何人モ異存
アルマイト思ヒマス、然ルニ本法案ハ此數
年來毎年出テ居リマスルガ、今ニハ通過
致サナイ、時恰モ北支ニ於テ事變ガ突發シ、
我ガ忠勇ナル國軍ハ炎暑ノ下ニ身命ヲ賭シ
テ兇暴ナル支那兵ト戰ツテ居ル、私ハ此機會
ニ於テ斯ル法案ヲ通過サスコトハ、最モ機
宜ヲ得タモノデアリ、又國家トシテハ斯ル
不具者ニ對シテ斯様ナ方法ヲ執ルコトガ、
國家ノ負傷者ニ對スル義務デアリ、又一面
ニ於キマシテハ、大所高所カラ見タ廣義國
防ノ意義ヲ爲スト思ヒマスルガ故ニ、本法
案ニ付キマシテハ是非トモ本議會ニ於テ兩
院ヲ通過シ成立スルヤウ、ドウカ御賛成ヲ
願ヒマス(拍手)

○服部崎市君 本案ハ政府提出、軍機保護
法改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコト
ヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ議
事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程
ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ
散會致シマス

午後三時四十一分散會

(河野一郎君演說参照)

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡寄村二千八百八十九番地

被告 佐藤 保次

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡清水村神繩三百五十七番地

被告 山崎 直藏

上申書ノ件

放火被疑事件

本籍神奈川縣足柄上郡松田町惣領千九百
十三番地倉吉長男

明治四十二年三月六日生二十九歳

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領千二百六番
地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡寄村字虫澤六百四十三
番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村中川上野原

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村玄倉二百十八番
地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村玄倉二百十八番
地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
六番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
九番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
九番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
九番地

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄郡清水村神繩三百四十五番地

被告人 山崎 逸郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡南足柄村開本千二十二
番地

上申書ノ件

放火被疑事件

小田原町綠町二丁目百五十三番地

上申書ノ件

放火被疑事件

小田原町綠町三丁目三百七十二番地

上申書ノ件

放火被疑事件

小田原町綠町三丁目三百七十二番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領千八百九十
九番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百
五十一番地

上申書ノ件

放火被疑事件

本籍地神奈川縣足柄上郡清水村湯觸二百
九十五番地

上申書ノ件

放火被疑事件

現住所神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領
千二百八十四番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千八百八
十八番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千八百八
十八番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百五十
四番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡寄村彌勒寺二千三百六
十八番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百六
十六番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百六
十六番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千七百六
十六番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千七百六
十六番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千九百三十
四番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千八百
九十九番地

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千八百
九十九番地

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡三保村中川二百四十二番地

被告人 關野 良造

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡松田町惣領千九百十二番地

被告人 内藤金次郎

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡三保村中川上之原二百八十三番地

被告人 細川 三平

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡三保村中川二百二十二番地

被告人 井上市五郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領二千二百十二番地

被告人 高橋 晋松

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領二千六十九番地

被告人 中村 嘉七

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領千八百八十八番地

被告人 石川 正司

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣松田町惣領千八百八十八番地

被告人 石井浦太郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領千九百十四番地

被告人 大野 梅忠

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村世附七百四十五番地

被告人 山本五三郎

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡松田町松田庶子二百二十一番地

坂田 米吉 當五十年

上申書ノ件

松田放火被疑事件ニ對スル件

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡清水村神繩三百四十八番地

被告人 高橋 茂

上申書ノ件

放火被疑事件

足柄上郡松田町松田惣領千二百四十九番地

被告人 露木源次郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領千八百七十一番地

被告人 天野 義信

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村玄倉二百四十八番地

被告人 佐藤百太郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村中川二百二十二番地

被告人 湯川 助一

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千八百九十九番地

被告人 吉田 傳三

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村上ノ野二百八十九番地

被告人 細川 磯吉

上申書ノ件

放火被疑事件

三尋木彌一郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町千九百五十一番地

被告人 澁谷 銳

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡寄村二千二百十三番地

被告人 佐藤 六郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領千八百八十六番地

被告人 井上 倉藏

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡寄村二千二百五十番地

被告人 佐藤 佐七

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町惣領千九百十四番地

被告人 内藤 直次

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡清水村神繩三百四十二番地

被告人 山崎作太郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町松田惣領千八百二十番地

被告人 中村 智尊

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡三保村玄倉二百五十六番地

被告人 三尋木新次郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄上郡松田町千八百九十番地

被告人 露木辰五郎

上申書ノ件

放火被疑事件

神奈川縣足柄下郡小田原町綠二丁目百六十九番地

被告人 片野仙太郎

上申書ノ件

放火被疑事件

放火被疑事件

被告人 山口喜右衛門 住所

取調經過報告書ノ件

松田町

三浦郡三崎町放火容疑者調ノ件

足柄上郡放火被疑者檢舉數調ノ件

三浦郡三崎町放火容疑者調ノ件

萬歲責外十六責方ノ件

足柄上郡、足柄下郡、平塚市及城ヶ島事件ノ檢舉ノ件

放火集團事件ニ於ケル拷問ノ件ニ關スル

秦野町ノ田淵徳次郎ノ手紙

衆議院議事速記第三號中正誤

頁 段 行 誤 正

二二三 末 社會主義 社會正義